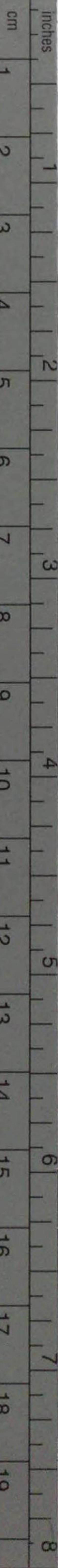


Kodak Gray Scale



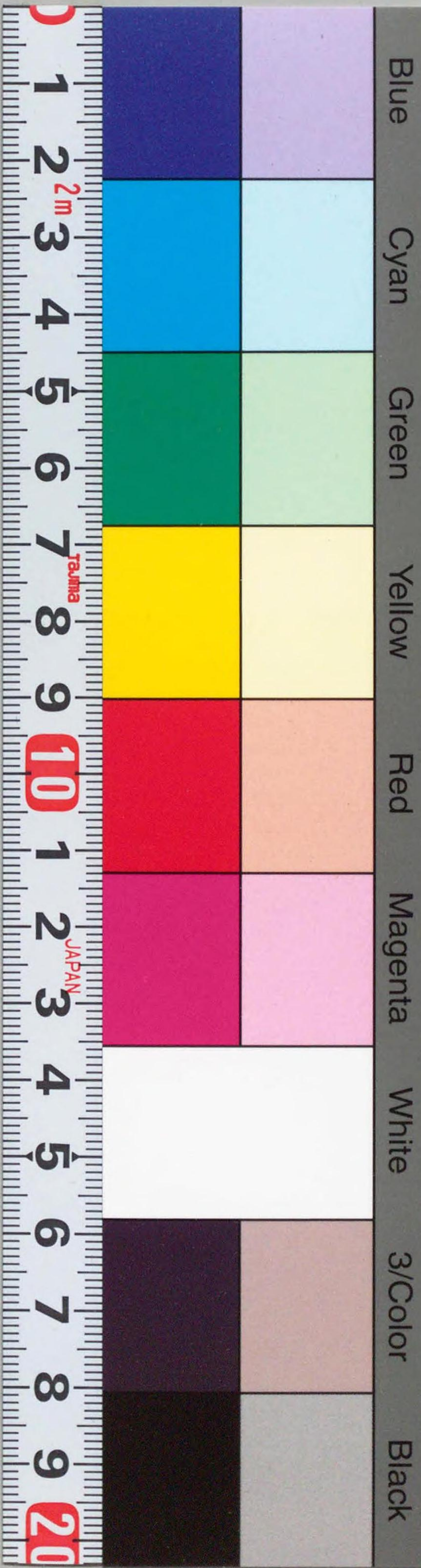
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

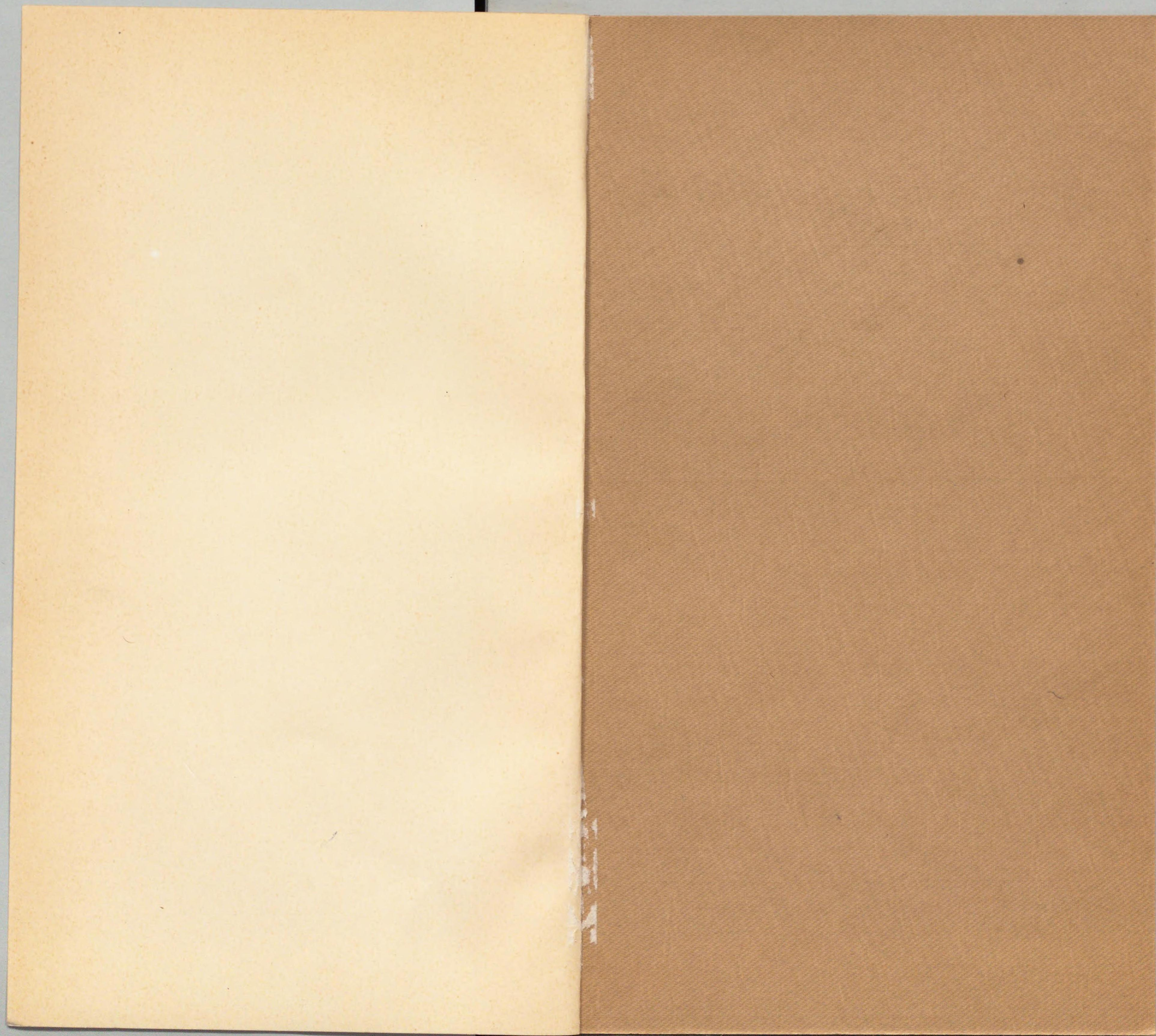
© Kodak, 2007 TM: Kodak



BZ
8
013

BZ-8-013
1200901600210

14.3
81



3F71

14.3
81

列國議會同盟並同日本議員團概要

大正十五年十一月

143-21
BZ
013

列國議會同盟並同日本議員團概要

目次

一、列國議會同盟ノ沿革 一頁

 列國議會同盟諸規則 二三

 規約 二三

 本會議規則 三九

 評議員會細則 三九

 事務局規定 三九

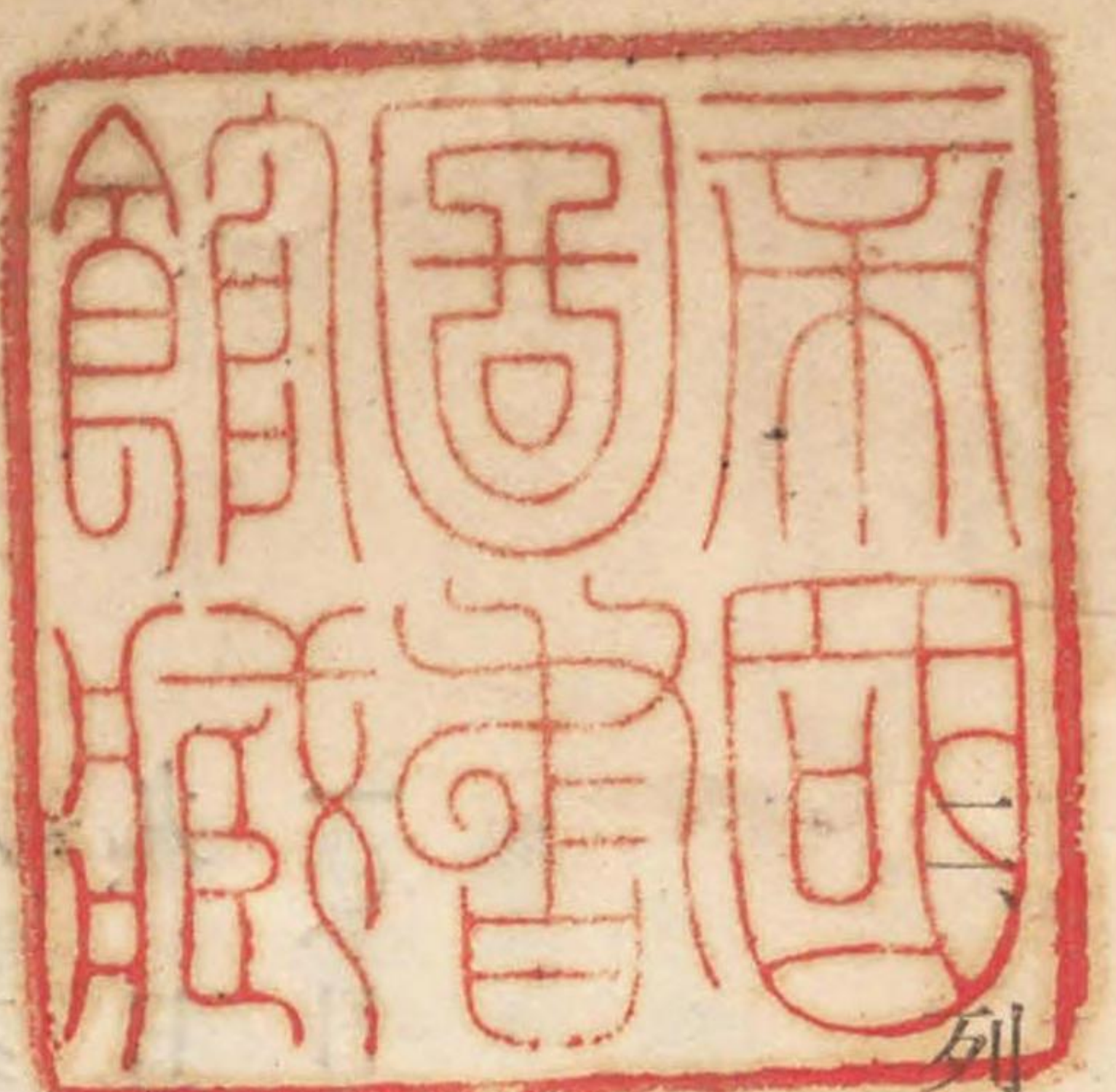
 會計規則 三九

 執行委員會細則 四〇

 調查委員會細則 四〇

三、列國議會同盟本會議開會年度表 四二

四、列國議會同盟豫算並各國分擔年釀金表 四四



衆議院事
寄贈本

五、第一回乃至列國議會同盟本會議決議要項 第二十三回	四九
六、列國議會同盟日本議員團ノ成立	七三
七、列國議會同盟日本議員團規約	七四
八、列國議會同盟會議日本議員團出席者氏名	七五
九、日本議員團ノ年釀金負擔ノ概要	七七
一〇、日本議員團ノ現在役員並團員名簿	八〇



列國議會同盟ノ沿革

列國議會同盟ノ沿革

(同盟ノ起源ヨリ一九一〇年日本議員團カ
同盟ニ加入スル迄ノ間ニ於ケル經過大要)

同盟ノ起源、同盟ノ確立、同盟ノ發展、同盟ノ事業、常設仲裁裁判所第二回海牙平和會議ノ召集、模範的仲裁裁判條約、同盟ノ新組織

○同盟ノ起源

列國平和及協同ノ爲メニ盡サムトシテ各國民議會議員ノ團結ヲ圖ルノ計畫ハ漸ク第十九世紀ノ後半期ニ興レリ、是ヨリ前既ニ一八三〇年及一八四〇年ノ間ニ於テ英米ノ平和論者ハ「國民會議」ノ創設ヲ唱ヘシコトアレトモ此ノ所謂「亞米利加計畫」ニ於テハ之ト其ノ趣旨ヲ異ニシタリキ、則チ定期外交會議ノ組織ヲ目的トスルモノニシテ各國政府ノ公式代表者ハ國際裁判所ノ活用ニ缺クヘカラサル國際法律作成ノ任務ヲ委囑セラレタリ

此ノ計畫ハ一八九九年及一九〇七年海牙ニ於テ開催シタル「列國平和會議」ノ規定中ニ見ルコトヲ得レトモ甚々幼稚ニシテ未タ不完全ナルヲ免レサリキ、之ニ反シ平和及仲裁裁判ノ爲メニ各國議員相協同シテ盡サムトスル計畫ニ至リテハ甚々之レト異ルモノアリ、最モ謹慎ニ且最モ熱心スル所アリ蓋シ其ハ個人的若クハ半官的事業ヲ目的トナシ又議會ノ行動ハ政府ノソレヨリモ遙カニ



廣キ範圍ニ互ルノミナラス一層強キ反響アレハナリ、是レ議員ハ選舉民ト爲政者トノ間ニ立ツモノナレハ兩方面ニ互リテ行動ヲ爲スニ適シ、則チ一方ニ於テハ輿論ヲ作り他方ニ在リテハ政府ヲシテ其ノ欲スル所ノ方針ニ憑ラシムルコトヲ得ルヲ以テナリ、
列國議會同盟設立ノ計畫ハ一八七〇年ノ頃始メテ企テラレタルカ如シ、而シテ之カ計畫ニ塊地利代議士わるてゐる、すきるへん男爵ノ心ヲ動かサシメタルハ當時ノ普佛戰爭ニテアリキ

其後幾許モナク一八七二年英米間ニ起リタルあらば仲裁裁判カ原因トナリテ一般仲裁裁判條約少クトモ通商條約ニ於テ仲裁裁判條款ノ挿入ヲ目的トスル各國議員團ノ一般運動ヲ見ルニ至レリ、一八七三年先ツ英國下院ニ於テ平和協會ノ幹事トシテ知ラレタルへんリー、リチャード氏カ之ニ關スル第一ノ發議ヲ提出シタルニ始マリ、稍行惱ム所アリシカ當時ノ宰相ぐらつとんとーん氏ノ好意的歡迎ヲ受クルニ至リ遂ニ同院ニ於テハ成功シタリ、爾來數年間同様ノ提議ハ米國議會及歐洲各國議會則チ伊太利、和蘭、丁抹瑞典、白耳義ニ於テ討議セラレタリ

是等ノ議論ハ復國際仲裁裁判及平和ヲ目的トスル議會合同ノ計畫ヲ喚起シ、殊ニ各階級ノ人心ヲ動かセリ、同計畫ハ一八七八年「世界博覽會」ノ際巴里ニテ開催セラレタル國際平和會議ニ於テモ亦議セシ所ナリ

然レトモ是等ノ計畫及議論ハ未タ何等實際上ノ結果ヲ生スルニ至ラザリキ、列國議會同盟ノ起

源ハ其處ニ於テ求ムヘカラス

◎同盟ノ確立

ういりあむ、らんだる、くりまーとふれでりつく、ぱっし

列國議會同盟ノ確立ハ英國下院議員ういりあむ、らんだる、くりまーノ莫大ナル精力及佛國代議士ふれでりつく、ぱっしノ熱心且獻身的協力ニ負フ所ナリ

らんだる、くりまーハ最モ卑賤ノ境遇ニ生レ、始メ大工職トナリ、後同業者組合ノ幹事、次テ同頭取ニ擧ケラレ、更ニ記者生活ヲ經テ一八八五年五十七歳ニシテ議員ニ當選セリ、彼ハ天性頗ル集中力ニ富ミ、一八七一年労働者親睦組合ヲ組織シタリ、是レ後ノ「國際仲裁裁判同盟」ナリトス、彼ノ最モ熱心ニ主張セシ意見ハあんぐろさくそん人ノ一系統間ニ於テ仲裁裁判條約ヲ締結セシムルニアリキ是レ其努力ヲ要スル少ナキヲ以テナリ、而シテ此ノ二姉妹國民間ノ例ハ其他ノ國民ニヨルモ做ハル、ニ至ラント思惟セリ、一八八七年彼ハ二國間ノ仲裁裁判條約ヲ目的トスル建議ニ對シテ下院議員二百二十四名及同業者組合理事ノ署名ヲ得タル後英國代表者委員長トナリテ大西洋ヲ横斷シ米國ニ渡リテ同國議會ヘ之ヲ提出シタリ

英米仲裁裁判條約ニ就テ此ノ計畫ハ失敗ニ歸シヌ、然レトモ其カ盡力ノ結果ハ列國議會同盟ノ組織ヲ見ルニ至レリ

くりまゝハ佛國ニ於ケル自由貿易派ノ首領ふれでりつく、ばつしいカ佛國ノ議會ニ於テ仲裁裁判ノ利益ヲ述ヘタルコトヲ知ルヤ、一八八八年彼ト通信ヲ爲セリ、ふれでりつく、ばつしいハ今尙熱心ナル平和論者ニシテ斯界ノ老將タリ、最高學術ノ研究ヲ積ミ就中經濟問題ニハ精通セリ、彼ノ眼界ハ頗ル闊大ニシテ英國ノ同僚ナルくりまゝモ尙彼ニハ及ハサリキ、又辯論ト文筆トニ長セル彼ハくりまゝノ能クスル所ニ非ラサリシ範圍ニモ其ノ勢力ヲ及ホシ得ルナリ、此ノ二者ハ互ニ相補フ所アリ、而シテ其ノ理想ニ於ケル信念、動カスヘカラサル樂觀主義ノ點ニ就テハ兩者相同シカリ

ふれでりつく、ばつしいノ協力ハ其ノ事業及くりまゝニヨリ既ニ豫想シタル同盟ノ組織ニ對スル佛國議員ノ援助ヲ確實ニスル所アリタリ

其ノ準備的會合ハ一八八八年十月三十一日巴里ノぐらんど、ほてるノ或一室ニ於テ催サレタルモ甚タ振ハス、僅カニ九名ノ英國議員及二十五名ノ佛國議員出席シタルニ過キス、又其ノ議セシ所ヲ見ルニ米、佛及英間ノ仲裁裁判條約ヲ目的トセシ過去數年間ノ斡旋ヲ助長スルコトニノミ限ラレタリ

然ルニ此ノ際可決シタル或決議ニ依レハ其ノ目的ヲ擴張セリ、即チ「此ノ第一回會議ニ於テ著手シタル事業ノ完成ヲ期セムカ爲メニ以上ノ三議會(米、英、佛)ノ議員ノミナラス其、他ノ議會議員

ニシテ同意見ヲ信奉スルコトヲ明ニシタル者ハ參加ヲ許サルヘキ第二回ノ集會ヲ明年開催スヘシト、此ノ決議ニヨリ列國議會同盟ハ發生セルモノトス

所謂第一回列國議會會議ハ其ノ翌一八八九年六月二十九日及同三十日世界博覽會ニ際シ巴里ニ於テ開催セラレシカ始メテ眞ニ國際的性質ヲ備ヘタリキ

參列議員九十六名ノ内、佛國人五十五名、英國人三十名、伊太利人、五名其ノ他白耳義、丁抹、匈牙利、リベリア、西班牙、亞米利加ノ各國ハ各一名ヲ出セリ、じゅーるす、しもんニヨリ開會セラレ、ふれでりつく、ばつしいハ之カ議長タリ

此會議ニ於テ列國議會會議繼續ノ端ヲ啓ケリ、此會議ノ第一決議中ニ列國議會組織ノ確立理由ヲ明ニシテ曰ク「政府ノ行動ハ專ラ公民團體ニ依リ發表サル、意見及感情ニ就テノ反影タラントスル傾向ニ進ミタレハ選舉民ハ其ノ政策ヲシテ正義、國民ノ權利及友愛ノ方向ヘ導クノ責任アルモノトス」

更ニ他ノ決議ニ於テハ計畫事業ノ繼續ヲ規定セリ、「新列國議會會議ハ之ニ參加スル國家中ノ或首府ニ於テ毎年開催セラルヘシ、而シテ次回ハ倫敦ニ開催セラル、コトニ決セリ」

ばーばーと、ぐらつどすとーん氏曰ク「數年ナラスシテ列國議會同盟創立ノ日ハ歷史上ノ紀念日トシテ觀察セラル、ニ至ラン」

◎同盟ノ發展

同盟議員カ現今(一九一〇年)ニ至ル迄ニ會議ヲ重ネタルコト十六回ニ及ヒヌ、内巴里ニ於テ二回(一八八九年及一九〇〇年)、倫敦ニ於テ二回(一八九〇年及一九〇六年)、ぶるゆせるニ於テ三回(一八九五年、一八九七年及一九〇五年)、羅馬(一八九一年)、べるん(一八九二年)、海牙(一八九四年)、ぶだペすと(一八九六年)、くりすちあにや(一八九九年)、維也納(一九〇三年)、伯林(一九〇八年)ノ歐洲各首府ニ於テ各一回開ケリ、一九〇四年ニ於テ列國會議員諸君ハ大西洋ヲ横斷シテ米國へ渡リせんど、るいす會議ニ參列シタリ、尙一回ハ一九一〇年再ヒぶるゆせるニ會合セリ

會議ハ始メ個人ノ家屋ニ於テ開催セラレタリシカ一八九二年べるんニ於ケル會議以來議會ノ建物ヲ利用シタリ、一八九九年くりすちあにやニ於テ始メテ政府ノ長官カ其ノ國ノ名義ニテ參列議員ニ挨拶ヲ爲シタル以來各國ニ於テモ亦主ナル大臣ノミナラス君主スラ彼等ニ對シテ非常ニ注意ヲ拂ヒテ懇懇ニ接待スルヲ例トセリ、此ノ赫々タル名聲ハ或ハ新聞ニヨリ或ハ輿論ニヨリ之ニ對シテ絶エス拂ハル、注意ノ増大ト其ノ步調ヲ一ニスルモノナリ、斯クテ其ノ初メ嘲笑ヲ以テ迎ヘラレタル會議モ今ヤ重要ナル國際的事件トシテ觀察セラレ且話サル、ニ至レリ

是迄會議ハ國際平和及好意ノ爲メニ大ニ擁護ノ地位ニ立チタルコト數回ニシテ、又公衆ニ與ヘタル印象ハ其議論及決議ト等シク重キヲ爲シタルコト多シ

以下少シク現代諸政治家ノ同盟ニ就テ抱ケル意見ヲ示サンカ爲メニ會議ニ於テ彼等ノ爲セル演說中ノ或部分ヲ其ノ儘茲ニ引用セントス

▲現佛蘭西共和國ノ大統領ふありーはる氏カ一九〇〇年巴里會議ノ議長トシテ同會議ニ於テ開會ノ辭ヲ述ヘテ曰ク

「諸君ノ歴史ニ屬シテ居ル利益ノ程度ハ諸君カ受ケテ居ラル、所ノ同情ヲ以テ計量セララル、コトカ出來マセウ、實際其レハ短日月ニ過キササルモ實ニ能ク發展シタモノデアアル、マタ十年經ツタカ經タナイ間ニ是迄ハ文明諸國ノ彼處是處テツト謂フ骨折ハ有ルニハ可成リ有ツタ様デアアルカ只方ニ散ラカッテ居ツタノテ何等纏マツテ認メラル、丈ノ效果ヲ收ムルコトカ出來ナカッタノデアリマス、ツレヲ今後ハ逆モ引離スコトハ難カシイダロト思ハル、位固ク一把ノ内ニ集メタノテ有リマス、國民ノ壽命ニ置キマス所ノ十年ハ之ヲ譬ヘテ見ヨウナラ直ニ過キ去ル如キ一瞬時ニモ當ラナイガ、併シ乍ラ此ノ瞬間サイモ種子カ地上ニ觸レテ將來實ヲ結フ所ノ萌芽ヲ貯ヘルニ十分テハ非サルカ

若モ吾人カ不幸ニシテ此ノ收穫ヲ自分テ刈リ入ル、事カ出來ナイトシマシテモ他日子孫カ其レヲ樂シムコトカ出來得ルダロト謂フ望カアルナラハ其レヲ如何シテ打チ棄テ置ケマシヨウカ

今ヤ吾人カ既ニ仲裁裁判ハ學者ノ慰又ハ空想ヲ考ヘラレタ時代カラハズツト進シテ居ルト謂フコトニ就テ諸君ニ感謝スル所テ有リマス、而シテ又道理ノ立タナイ反對カ起ツタ場合ニハ何時テモ所謂「國民ノ智力則チ國民ノ正義ニ依テ非難スル様ニナツタノハ諸君ノオ蔭デアリマス、今迄成功シタ所ノ計畫ニ依テ見マスルニ國民ニ於テモ亦個人ニ於テト同シテアルト謂フコトヲ證明シテ居ル、個人ニ對スルト同様ニ國民ニ對シテモ亦效果アル計畫ニ對シテハ殊ニ友愛ノ源泉カラ湧キ出ル場合デアレハ之ニ抵抗ヲ試ミタ所カ結局ハ無益ニ終ルモノト謂フコトヲ證明シテ居ル」

▲一九〇四年華盛頓ニ於テ召集セラレタルセンと、るいす會議ニ於テ當時ノ亞米利加合衆國ノ大統領ルーズベルト氏ハ左ノ演說ヲ爲シタリ

「我々カ我カ國民ノ賓客トシテ諸君ヲ迎ヘルノ光榮ヲ有シタコトハ全米國人ノ等シク満足ニ堪ヘサル所テ有リマス、諸君ハ夫々皆國家ニ在ツテハ政務ニ經驗セル方々許リナラン、此ノ事實ハ國際正義ノ爲メニ擁護者トシテハ諸君カ重キヲ爲サル、所以テ有リマス……」

諸君カ擁護ナサラントシテ居ル大ナル目的ニ對シテ餘リニ成功ヲ急カル、コトカ有ツタナラハ其レハ恰モ空中ニ樓閣ヲ描クト等シイ様ナモノテ有リマシヨ、左様テナク我々カ個人間ノ關係ト同シ様ニ世界各國民ノ間ニ於キマシテモ亦互ニ外ノ者ニ對シマシテ正シイ義務ノ觀念ヲ保障スル爲メニ其ノ標的ニ對シテ誠心誠意努ムル所カ有ルナラハ眞ノ進歩ト謂フモノハ期シテ待ツヘ

キテ有リマス、權利ト義務トハ互ニ手ヲ携フルモノデアル、我等ノ絶エス盡カスル所ハ外ノ國民ノ權利ヲ互ニ十分尊重シ又保障セネハナラヌト同時ニ亦其ノモノニ對フル自分自身ノ義務ノ觀念モ絶エス益々涵養セネハナラヌノデアル」

▲一九〇六年倫敦會議ニ當リ英國宰相サー、ヘンリー・キヤムバベ、ばんぢーまん氏カ祝辭演說ヲ爲シタル中ニ左ノ注目スヘキコトアリ

「茲ニオ集リノ多數諸君ハ銘々其ノ國ノ議會カラ信任特派セラレタ所ノ代表者トシテオ居テ、ナイ、斯ク申スナラハ聊カ御不審ニ思ハル、デアローカ元來此ノ集リハ公式ノモノテハ有リマセン、余ノ想像カ誤リナイトスレハ諸君ハ諸君ノ同胞デアアル多クノ男女老幼ノ爲メ輿望ヲ負ウテ立ツタ所ノ代表者テ有ルト謂フ考ニ滿チテ茲ニオ居テナサルニ違ヒアリマセン、而シテ又諸君ハ是迄ノ他ノ集會テハ見ルコトノ出來ナイカヲ以テ人性ノ大部分ヲ占ムルノ良心、理性及感情ヲ自由ニ而モ完全ニ表ハスコトノ出來ル能力ヲオ持テナツテ臨マレタニ違ヒナイ、ソレデアルカラ、今茲テ余カオ話ヲスルニシテモ歐洲ノ各國竝ニ米國ノ代表者トシテ諸君ニ對スルノテハナク、寧ロ總テ我々ニ共通デアリ又之カ無イナラハ此ノ世ノ中ニ置キマス所ノ我々ノ生活ハ前途ニ光明ノナイモノトナツテシマウデアロー、ソレナ大切ナ主義ヤラ希望ヤラヲ代表シテオ居テナサル方々トシテ諸君ニオ話ヲスルノデアルト謂フ感シカ致シマス

諸君ノ使命トセラル、所ノ目的ニ對シテ我カ陛下ノ政府ノ希望ハ諸君ノ事業ニハ贊成タト直チニオ答ヘスルコトカ出來ル、而シテ又諸君カ商議ナサルコトカ各國民ノ間ニ一層親密ナ關係ヲ進メルコトニ與ツテ大キニカアル様ニ希望シテ置キマス

新世紀以來本事業ハ諸君ノ盡力ニヨリテ大ニ發達セリ實ニ戰爭ノ地球上ヨリ驅逐セラル、事ヲ希望スルモノナリ

▲一九〇八年ノ伯林會議ニ於テ獨逸帝國聯邦會議議長びゆるー公ガ同帝國政府ヲ代表シテ爲シタル演說中ニ左ノ如キ事ヲ述ヘタリ

「列國議會同盟カ我カ獨逸ノ土地テ開カレタノハ之レカ始メテ、アルカ併シ乍ラ諸君トハ全ク知ラナイ譯テハナイ、外ノ文明諸國ト同シ様ニ我カ獨逸帝國モ亦諸君ニ依テ高尙ナ目的ノ爲メニ如何程迄貢獻セラレツ、アルカト謂フコトハ能ク知ツテ居ルモノデアリマス

此ノ輝キノアルオ集リヲ見渡シマスニ總テノ年齢ヲ代表ナサツタ方ミカオ居テノ様デアルカ、私ニハ之カ眞ニ結構ナ現象タト思ハレル、何故カト申スナラ諸君ノ事業ニ置キマレテハ壯年ノ活氣ト老成ノ經驗トヲ調和サセルコトカ出來ルカラテ有リマス、而シテ始メテ諸君カ總テ有益ナ事業ニ付キ纏ウテ行ク所ノアラユル躊躇ヤ困難ニモ打チ勝ツコトカ出來ルノデアルシ、又實際初メノ内ハ僅カノ人テ計畫シタ大キナ目的テモ達スルコトカ出來タノデアリマス

「最モ名ノアル方ミ、就中余カ今茲ニ名指ツウト思ウテ居ル諸君ノ老将ぼつしい君カ此ノ内ニ居ラレルノハ非常ニ愉快ナコトテ有リマス、余カ此ノ前ニオ目ニカ、ツタノハ丁度今カラ三十年許リ昔ノ事テ巴里デアツタト記憶シテ居ルカ圖ラスモ亦再ヒ此處テオ目ニカ、ルコトカ出來タノテ有リマス、所カ矢張り昔ト變ハラヌ胸ノ寬イ、熱心ノ有ル若々シイ方デアル、斯シナ人格ノ方ミカラノ指導ニ依ツテ諸君ハ各國民間ノ平和ノ爲メ將タ好意ノ爲メニ保障ヲ得ヨウトナサル所ノ事業ヲ繼續シテ來ラレタノデ有リマス、困難ノ事業、成程多クノ難儀ナコトモ有ロシ又幾多ノ障害モ現ハレテ來テ眞ニ辛イ事業デアルニハ違イナカロー併シ乍ラ實ニ美ハシイ計畫テ有リマス、事實年々益々諸君ノ成功カ現ハレテ來タト謂フコトハ爭ハレナイ事實テ有リマス……

立憲國ノ大臣トシテノ余ハ諸君カ其ノ國民ノ代表者トナツテ同胞人民ノ意向ヲ代表サル、モノデアルト謂フコトヲ知ツテ居ルカ、抑人民ノ希望ト謂フモノハ歸スル所ハ何時モ和合、進歩、平和ヲ愛スト謂フニ外ナラナイ、則チ諸君ノ希望計畫ト一致シテ居ルモノデアル、更ニ政府ニ對スル諸君ノ態度ニ就テ望ム所ハ是迄政府カ國際條約ヲ結ンテ迄モ諸君ノ希望ヲ容レタ様ニ將來モ矢張りツシナ正義ノ路ヲ辿ル様ニ導イテ貫ヒ度イノデアリマス、政府ハ其ノ満足ニ思フ所ノ總テノ問題ヲ研究スルニ當リマシテハ是迄諸君ノ希望ヲ參照シテ來マシタ結果デアリマス、若モ政府カ將來モ尙今迄通りノ方針テ遣ツテ行ク様デアリマスナラハ其レハ大部分諸君ノ功績デアリマス、政府カ

御互間ニ又政府ト諸君トカ御互ニ達シヨウト努メテ居ル所ノ目的ニ於キマシテハ同一テアル、只違フ所ハ其ノ目的ヲ出來ル丈善ク又出來ル丈安全ナ方法テ達シヨウトスル手段ノ異ルニ過キナイノテアリマス……

終リニ臨ミマシテ尙一言注意シテ置キ度イト思フコトハ或人カ諸君ノ事業トハ關係ノナイ性質ノモノヲ諸君ノ事業ニ加ヘヨウト試ミタコトテ有リマス、又或人ハ諸君ノ意思テハナイモノヲ以テ諸君ニ罪ヲ歸セシメヨウトシタ事テアリマス、平和ヲ愛スルカラト申シテ決シテ愛國心ノ缺乏ヲ示スコト、ハナリマセン

否寧口無智ナ、害惡ナ、偏見ナ、不健康ナ、憎ムヘキ、又往々盲目的ナ、野心的ナ或ハ詐欺的ナ紛争ヲ防カウト努メル人ハ愛國者テアリマス

其ノ様ナ行動ヲ爲サレツ、アル諸君ハ正ニ愛國者テアツテ彼ノ道ヲ拓キ或ハ邪魔物ヲ取り除イテヤル所ノ夫等ノ愛國者同様ニシテ總テノ人類、總テノ國民ニ共通テアル理想郷ヘ人類ノ行進ヲ一層自由ニ一層容易ニシテヤロト努メルコトハ少シモ違フコトハナイノテアリマス

初メ數年間同盟ニ常設ノ機關ナカリシカ後各國ニ於テ「列國議會委員會」ヲ組織セシメムカ爲メニ議員召集ノ上會議ヲ開ケリ、是レ現今諸團體ノ起源ヲ爲スモノナリ、一八九一年ろゝま會議ニ於

テ中央事務局設置ノ議アリシカ其ノ結果假文書局ヲ置クコトニ決セリ、其ノ翌年一八九二年ベールン會議ヲ經テ遂ニ確定機關ノ制定ヲ見ルニ至レリ、是レ「列國議會同盟事務局」ニシテ同盟ノ中央事務局トシテ其ノ事務ヲ執ル所、而シテ其ノ事務ハ瑞西委員會委員ニ屬セリ

爾來十七年間則チ一九〇九年七月一日ニ至ル迄瑞西國民評議員會委員ニシテべるん縣政廳官吏どくとる、あるばーど、ごーぼつと氏ハ其ノ他ニモ自ラ種々ナル要職ニ在リナカラ、時、勢力及利益ヲ犠牲ニ供スルモ尙辭セスシテ此ノ事務局ヲ指導セラレタルニ對シテハ列國議會同盟ノ完全ニ謝スル所能ハサルナリ、四年間彼ハ「列國議會會議」ト題スル月刊新報ヲ發行シテ其ノ共同事業ニ對スル注意及熱心ヲ喚起スルニ最モ努メタリキ、實ニ同盟ノ初メ八年間ニ關スル有益ナル報告ヲ見得ルハ主トシテ此ノ價値アル出版物ノ賜ナリ

現今ニ於テハ參列議員彌多キヲ加ヘ、諸團體ニ屬スル人員モ亦著シク其ノ増加ヲ見タリ、或議會ノ如キハ全代議士舉テ之ニ加入セルノ有様ナリ、而シテ又今ヤ殆ント歐洲各國ニ於テ團體ノ組織セラレサルハナク、最近ニ組織セラレタルモノヲ舉クレハ露西亞、土耳其、せるびあノ各議會トナス、米國議會ノ或議員ハ一九〇四年ニ至ル迄個人トシテ會議ヘ參列シタリシカ同年亞米利加團體ノ組織ヲ見タリ、斯クテ間モナク、せんと、るいす會議ヲ開催シ其ノ目覺マシキ活動ヲ發揮セリ

◎同盟ノ事業

列國議會同盟ハ數次ノ會議ニ於テ國民團體ノ組織及發展ヲ促進セシムルニ足ルヘキ問題ハ悉ク之ヲ討議シタリ、中立及戰爭ニ關スル決議ハ通過スル所トナリ、而シテ屢、戰時海上ニ於ケル私有財產ノ免除ヲ可トスル旨ノ宣言ヲ爲セリ、尙兩度ノ會議ハ國際法々典作成ノ要請ヲ容レタリ、又或會議ニ於テノ如キハ軍備擴張ニ就テノ問題ヲ討議シタルコトアリキ

然レトモ同盟ノ論議スヘキ範圍ハ之ヲ國際法ノ問題ニ限局シテ其他經濟問題ニ及フコトナク、亦特ニ現時局ノ諸問題ニ互ル斷定ハ努メテ之ヲ避ケタリ、同盟ハ初メ國際仲裁裁判ニ對スル列國議會會議ト稱シヌ、一八九二年べるんニ於テ始メテ明ニ左ノ如ク其ノ目的ヲ發表セリ、國際仲裁裁判ニ對スル列國議會會議ハ國家間ノ紛爭ヲ解決セシメンカ爲メニ仲裁裁判所ニ提出ス可ク又ハ一般ノ利益ニ係ハルモノニシテ仲裁裁判ノ趣旨ニ適合スヘキ國際問題ヲモ處決セシム可ク總テ仲裁裁判所ニ依ルヘシト爲スノ原則ヲ各國ニ於テ一般法律若クハ特別國際條約ニ依リテ容認セシムルノ目的ヲ以テ組織セラレ又ハ組織セラレヘキ各國議會議員團ノ機關ナリ

其ノ後ニ至リ同盟ノ活動範圍擴張セラレタルヲ以テ從前ノ名稱ニテハ狹キニ失シ隨テ又其ノ規則ニモ多少ノ改正ヲ見タリ、併シ乍ラ同盟ノ主トスル目的ニ於テハ變ルコトナク恆ニ仲裁裁判ノ實行ヲ擴張スルニアリ、其ノ實行則チ平穩ノ裏ニ國際爭議ヲ解決セシムルノ實行ニシテ過去二十年間ニ於テ進捗スル所アリトセハ此ノ點ニ就テ同盟ノ顯著ナル功績ハ之ヲ否認スル事能ハス又各

國政治家間ノ頻々タル接觸ハ歐洲ニ於ケル平和政策ノ啓發ニ貢獻セシハ疑フヘカラサルナリ吾人ハ茲ニ最モ重要ナル三點ニ就テ同盟ノ與ヘタル影響ヲ明ニセサルヘカラス、(一)第一回海牙會議ニ依リ常設仲裁裁判所ノ設置セラレタル事、(二)第二回海牙會議ノ召集、(三)第二回海牙會議ノ際討議ノ基礎トナリシ模範的仲裁裁判條約ノ作成

◎常設仲裁裁判所

列國議會會議ノ初メ二回ハ仲裁裁判問題ノ一方面則チ國家ハ紛爭ヲ仲裁裁判ニ付スヘキ義務アリト約スル條約ノ締結ヲ商議シタルニ過キサリキ

一八九一年ろゝま會議ニ於テハ該問題ノ他方面ヲ完成セリ、則チ仲裁裁判所ノ組織ヲ次回會議ノ議題トナサンカ爲メニ列國議會委員會ヲ召集セシコト是ナリ、此ノ事タルヤ左ノ二點ニ就テ著シキ進歩ヲ意味スルモノナリ、之ヲ實際上ヨリ觀察スレハ紛爭ノ場合雙方感情ノ激怒ヲ彌、増サントスルノ時始メテ裁判所ヲ特設セサル方反テ仲裁裁判ニ付スルコトヲ容易ナラシムルコト、又之ヲ理論上ヨリ觀察スレハ斯ノ如キ裁判所ノ存在ハ國民社會進歩ノ狀態ヲ明ニ示スモノト謂ヒ得ヘシ、抑社會カ有機的團體トシテ又合理的法律的團體トシテ存在スルハ法律ニ依ル裁判權ノ常ニ存在スルヲ以テナリ

仲裁裁判所ニ關スル問題ハ三回引續キ會議ニ付セラレタリ、一八九四年海牙會議ニ於テ當時下

院議員ナリシ英國ノふいりつぷ、ずたんほーぶ氏(今ノうゑやでーる卿)ハ此ノ問題ニ關スル報告ヲ提出シ、最後ニ常設仲裁裁判所ノ組織ニ就テノ草案ヲ次回會議迄ニ起草シテ提出セシメンカ爲メニ六名ノ委員ヘ付託ノ件ヲ結論セリ、同草案ハ左ノ主義ニ據ラサルヘカラス

- (一) 國民ノ主權ハ讓ルヘカラス、且之ヲ犯スヘカラス
- (二) 國際常設裁判所ノ組織ニ就テ各國政府ノ加入ハ全ク隨意タルヘキコト
- (三) 加入國家ハ總テ國際常設裁判所ニ對シテ全ク平等ノ地位ニ立タサルヘカラス
- (四) 常設裁判所ノ宣告ハ執行判決ノ形式ヲ備ヘサルヘカラス

會議ハずたんほーぶ氏ノ提議ヲ採用セリ、一八九五年ぶるゆせるニ於テ開催シタル次ノ會議ノ際白耳義上院議員うぞーどゆ、るえい氏ハ同委員會ニ代リテ之カ報告ヲ爲シ次テ序言ニ簡單ナル理由ヲ載セタル十四箇條ヨリ成ル協約ノ草案ヲ推薦シタリシカ同會議ハ之ヲ容認シ、白耳義上院議員るーがあん大學國際法ノ教授ニシテ同會議議長しゆがありえ、ですかつむ氏ニヨリテ之ヲ文明諸國ノ政府ヘ通牒セシメタリ、同氏ハ其委囑ノ事業ヲ實行セリ、其ノ著列強參考國際仲裁裁判論「ハ此ノ問題ニ就テ列國議會會議ノ計畫ヲ發表セリ、是レ仲裁裁判ニ關スル計畫ノ第一著手トシテ觀察セラル、所ナリ、其ノ後四年ヲ經テ則チ一八九九年第一回平和會議ヲ海牙ニ於テ開催シタル時白耳義ヲ代表シテ參加シタルしゆがありえ、ですかつむハ國際仲裁裁判問題研究第三委員會ノ報告

委員ニ舉ケラレタリ、國際爭議平和解決ノ爲メニ開カレタル同會議ニ於テ廣キ範圍ニ互リテ可決セラレタル重大ナル協約ハ列國議會同盟ニ依リテ起草セラレタルモノニ基クモノニシテ同協約ニ依リ定メラレタル仲裁裁判所ニ對シテ各國ハ總テ全ク平等ノ地位ニ置カル、モノナリ

是ニ於テ乎同盟ノ擁護シツ、アル計畫ハ實際ノ勝利ヲ得タルモノナリ、又海牙平和會議ノ召集ハ列國議會ノ運動殊ニ一八九六年ぶだべすと會議ニ負フ所ナリト稱セラル、其ノ他種々影響スル所アリテ寧ろ異レル目的ノ爲メニモ露西亞政府ヲ動カシテ平和會議ヲ召集セシムルニ力アリシハ蔽フヘカラス

毎時同平和會議カ列國議會計畫者ニ與ヘタル利益ハ非常ニ大ナリキ、同盟ニ依リ考究セラレタル數多ノ問題ハ同會議ニ於テ國家ニ責任アル公ナル代表者ニ依リ討議セラレタリ、其ノ内解決セラレタルハ僅カ數種ニ過キサレハ尙平和會議ハ列國議會議員ノ盡力ニ俟ツ所多大ナルコトヲ示セリ

則チ現在國際關係ノ無政府的狀態ヲシテ一般ニ希望セル裁判的及法律的状态ニ代ハラシムルニ足ルヘキ大刷新ヲ行フコト及外交會議ニ於ケル討議ノ準備ヲ爲サシムルコト是ナリ

◎第二回海牙平和會議ノ召集

一九〇四年せんとるいす會議ハ亦平和會議召集ノ議ヲ提出シタルコトヲ説明セサル可カラス

米國會議員ておどられるばるとん氏ハ同會議ニ於テ此ノ問題ヲ提出シタリ、氏ノ此ノ發議ニ據リ可決シタル決議中ニ注意スヘキニ要點アリ、内ニ點ハ次回會議ニ於テ研究ノ價値アルモノトセラル、即チ(一)會議ニ參列ノ國家間ニ於テ仲裁裁判ニ依ルノ義務ヲ約スル仲裁裁判條約締結ノ件、(二)國際會議ヲ定期的ナラシメ第一回海牙平和會議ニヨリ定メラレタル裁判所ト相俟チテ國民社會ニ於ケル法律ノ制定ヲ爲サシムヘキコト

第三ノ決議事項ハ平和會議召集ノ發議ニ就キ米國大統領ニ對シテ懇勸ナル要請ヲ爲スヘキコトヲ以テ結論セリ

一九〇四年九月二十四日ごーぼつと氏ハ列國議會會議議員ノ名ヲ以テ華盛頓ほわいと、ばうすニ於ケルておどる、るーざぐはると氏ニ同決議ヲ提出シる氏ハ左ノ言ヲ以テ之ニ應ヘタリ

「不日余ハ諸君ノ要請ニ係ハル會議ノ召集ヲ提出スヘシ」
其提案ハ三年ヲ經テ第二回海牙會議ノ會合ヲ見ルニ至レリ

◎模範的仲裁裁判條約

其ノ間同盟ハ新會議へ提出スヘキ問題ノ準備ニ就テ大ニ努メ一九〇五年ぶるゆせる及一九〇六年倫敦ノ二同盟會議ハ其議題ニ付研究ヲ爲シタリ、倫敦會議ハ特別ノ理由ヲ以テ國際協約ノ草案ヲ可決シ同盟ノ常ニ主要目的トスル仲裁裁判ノ問題ニ一歩ヲ進メタリ、第一回海牙會議ニ依リテ

定メラレタル仲裁裁判ニシテ全ク有益ニ利用セラレ得タリトセハ國家カ或種ノ紛争ニ就テ仲裁裁判ニ依ルヘキコトヲ約スルハ必要ナル事ト謂フヘキノミ

模範的仲裁裁判條約ハ米國會議員りちやーど、ばるうると氏ノ發議ニ據リ、倫敦會議ノ際特別委員會ヲ代表シ塊地利前大藏大臣はるんすとふあん、ふれな一閣下ニ依リ提出セラレタル重要ナル報告ヲ基礎トシテ可決セラレタルモノニシテ一九〇七年ノ海牙會議ニ於ケル重要事項トナレルモノナリ

該條約案ハ葡萄牙代議士ニヨリテ採用セラレ以テ仲裁裁判委員會ニ提出セラレタリ、此ノ草案ヲ中心トシテ議論沸騰セシカ結局草案ノ或點ニ於テ制限セラレ他ノ點ニ於テ大ニ擴張セラレ、所アリタルカ其ノ初メハ頗ル冷淡ニ迎ヘラレシモ漸次多クノ贊成者ヲ續出シ遂ニ海牙會議ニ參列代表者ヲ出セル四十四箇國ノ内三十二箇國ノ連合投票ヲ得タリ

未タ之ヲ以テ十分ナリト爲ス可ラス、外交上ノ諸會議ニ於テ必ス適用セラレ、滿場一致ノ主義ハ少數者ハ其ノ讓歩ヲ拒メル爲メ其優勢ヲ保持セリ

然レトモ義務的仲裁裁判ノ主義ヲ目的トスル左ノ宣言ハ滿場一致ヲ以テ通過シタリ

「或紛争殊ニ國際協約ノ解釋並ニ適用ニ關スルカ如キ場合ニ於テハ何等ノ制限ナク當然仲裁裁判ニ依ルヘキモノトス」

此ノ滿場一致ヲ以テ可決シタル宣言ノ重要ナルコトハ之ヲ看過スヘカラスト雖之カ爲メニ何人モ法律上ノ拘束ヲ受クルモノニ非サルナリ、第二回海牙會議ニ於テハ列國議會同盟ノ事業ニ關聯ナク又將來モ之ニ與カルコトナカルヘキ特殊事項ニシテ契約ニ基ク債務ノ償還ニ關スル爭議ニ就テハ仲裁裁判ニ依ルヘキ義務アルコトヲ定メタルニ過キサリキ

◎同盟ノ新組織

同盟ハ德義上ノ勝利ヲ圖ルノ目的ヲ以テ海牙會議ニ臨ムニ當リ多數ヲ結束スル所アリシモ不幸ニシテ未タ滿場一致ノ可決ヲ見ルニハ至ラザリキ、完全ナル勝ヲ制セムトセハ尙一層ノ盡力ト集中トヲ要スルモノアリ、此ノ點ヨリ第十五回列國議會會議ヲ觀察セサルヘカラスト、同會議ハ一九〇八年九月伯林ニ於テ開催セラレタルカ同盟ノ歴史上特筆スヘキ價值アリ、是レ其ノ場所及ヒ之ニ伴フ四圍ノ狀況カ是迄ニナキ特別ノ資格ヲ與ヘタルニ因ルヘシ

斯クテ同會議ハ國際平和及協同ノ爲メニ最モ著シキ證明トナレリ、則チ日本及露西亞ヲモ加ヘテ十八箇國ノ代表議員六百名以上ノ參列ヲ見タリ、同集會ハ又同盟ノ組織ニ就キ殊ニ重キヲ爲セリ

同盟ハ一八九九年くりすちあにや會議以來各國民團體ニ於テ選定セラル、二名ノ代表者ヨリ成ル列國議會評議員會ニ依リ指導セラレ其ノ會長ハ是迄毎會期間任セラレタル所ナリシカ今ヤ常任會長ヲ置クニ至レリ、而シテ此ノ現在ノ顯職ニハ前白耳義總理大臣又前下院議長タルおーぎゆすと、べるなる氏(名譽國務大臣)就任セリ

評議員會ノ主タル職務ハ、列國議會會議ヲ準備シ召集スルコト、贈與及遺產ノ領收承認、歲出入會計ヲ定ムルコト、決算ヲ是認スルコト、同盟ノ會計掛及幹事ヲ指命スルコト

同會長ハ同時ニ新團體則チ執行委員會ノ委員及職務上委員長ヲ兼ヌルモノトス、同委員會ハ五名ヨリ成リ内四名ハ本會議ニ於テ滿場著席ノ上選舉セラレタルモノニシテ各國團體ニ屬スルモノナリ、内一名宛毎會議ニ改選シ一年後ニ非サレハ再選セラル、コトヲ得ス、他ノ團體ニ屬スル議員ニヨリテ更代セサルヘカラスト

此ノ委員會ハべるんヨリぶるゆせるヘ移轉セシ列國議會事務局監督ノ任ニ當ルモノナリ、同盟事務局ノ職務執行ハ評議員會ニヨリ指命セラレタル幹事ニ屬セリ、新組織ハ莫大ナル費用ヲ要シ之カ支出ヲ爲サンタメ各國團體ニ訴ヘテ毎年ノ收入ヲ確ムル所アリタリ

是迄殆ント議員ノ個人的寄附ニヨリ同盟ヲ維持シ來リ只諾威一國ノミハ毎年政府ニ於テ補助金ヲ醸出シタリキ、然ルニ伯林會議ニ於テ新組織ノ主唱者うえやーである卿ハ英國政府ヨリ毎年三百磅ノ補助金ヲ提供スヘキ申出アル旨ヲ發表セリ、諾威並ニ英國ノ此ノ例ハ其ノ後各國ノ倣フ所ト

ナリ、現在ニ於テハ大略二千磅ノ歳入ヲ確メ得タリ、斯ノ如クニシテ同盟ハ各國並ニ諸政府トノ關係ヲ固ムルニ於テ新局面ヲ開拓セリ、各國政府ハ補助金ノ釀出ニ依リ同盟ニ義務ヲ負ハシムルト同時ニ亦自ラモ國際諸問題ニ就テ同盟ニ依リ研究セラレタル結果ヲ眞面目ニ考察スルノ德義ヲ有スルモノトス、斯ノ如クニシテ列國議會同盟ハ國民團體將來ノ構成組織ノ一要素ヲナスモノナリ、同盟ノ爲スヘキ事業ハ尙頗ル多ク之ヲ達センカ爲メニハ列國各議會内ニ存在スル好意ノ熱心ナル助力ニ俟タサルヘカラサルナリ

列國議會同盟事務局ノ職務ハ同盟ノ規則ニ依リ左ノ如ク規定セラレ

- (一) 各國民團體議員ノ名簿ヲ備ヘ、而シテ之カ作成ニ當ルヘキモノトス
- (二) 各團體相互ノ關係ニ就テハ總テ其ノ中心機關タリ
- (三) 評議員會及本會議ヘ提出スヘキ問題ノ準備並ニ適當時期迄ニ總テノ必要文書ヲ配布スルコト
- (四) 評議員會及本會議ノ決議ノ執行ニ注意スルコト
- (五) 國際仲裁裁判ニ關スル文書ノ蒐集並ニ保存ヲナスコト

二、列國議會同盟諸規則

列國議會同盟規約

(一九二二年維也納會議ニ於ケル修正案即チ同會議ニテ議決セタルモノニシテ現行規則タリ)

第一章 目的及組織

第一條 列國議會同盟ハ國際的一國民團體ヲ組織シ統一の共同動作ヲ以テ各國民ノ協力ト世界平和ノ確保及其ノ民主的發展ノ爲ニ各國議會議員ノ總テヲ結合セシムルト同時ニ議會活動ニ依テ解決シ得ラルヘキ凡テノ國際問題ヲ研究スルヲ以テ目的トス

第二條 列國議會同盟ハ其ノ本部ヲ「ぢゆねーぶ」ニ置ク(すどつくほるむニ於ケル假決議)

第三條 列國議會同盟ハ各國議員團ヲ以テ組織ス

他ノ議會ニ代表者ヲ出ササル國ノ議會議員團ノミ同盟ニ加入スルコトヲ得

一國議會ハ一議員團ノミヲ組織スルコトヲ得

各議員團ハ團務ヲ處理シ且列國議會同盟事務局ヲ設置シ各議員團ハ其ノ組織並ニ事務ニ關スル規定ヲ定メ毎年三月末日迄ニ其ノ團ノ行動ニ關スル報告書及團員名簿ヲ列國議會同盟事務局ニ提出スヘシ

第四條 左ニ掲クルモノハ議員團ノ團員タルノ資格ヲ有ス

一、國會議員

一、前國會議員ニシテ現ニ議會同盟評議員タリ若ハ曾テ評議員タリシ者又ハ同盟ニ對シ功勞顯著ナル前國會議員ニシテ本人所屬國議員團ノ推薦ニ基キ評議員會カ該議員團ノ名譽團員トシテ認可シタル者

第五條 議員團ハ其ノ委員若ハ團員ヲ通シテ議會又ハ政府ノ活動ヲ要スヘキ同盟會議ノ決議ニ付テハ自國議會ニ之ヲ提案スルノ義務ヲ有ス
列國議會同盟ハ其ノ事業ニ對シ出來得ル限り多クノ援助ヲ得ムカ爲同盟議員カ各自國內ニ於テ同盟事業ノ宣傳ニ力ヲ盡スト共ニ各國間ノ平和維持ニ最善ノ協力アラムコトヲ希望ス

第二章 列國議會同盟會議

第六條 列國議會同盟ハ反對ノ決議アルニ非サレハ毎年一回會議ヲ開ク列國議會同盟評議員會ハ會議ヲ召集シ且會議ヲ開クヘキ場所ヲ選定スヘシ

第七條 各議員團員ハ列國議會同盟會議ニ出席シ其ノ討論ニ加ハルノ權利ヲ有ス但評議員會ハ同盟會議開催地國議員團ノ要求アルカ又ハ特別ノ事情ニ依リ必要ナリト認ムルトキハ第十條ノ規定ニ從ヒ出席議員數ヲ制限スルコトヲ得

第八條 會議ハ評議員會議長又ハ其ノ不在ナル場合ハ會議開催國ノ議員團カ特ニ此ノ目的ノ爲選舉シタル假議長之ヲ開キ一名ノ議長數名ノ副議長及投票検査委員ヲ選舉ス

第九條 討論ハ列國議會同盟評議員會提出ノ議事日程ニ上程サレタル問題ノミニ付之ヲ行フ其ノ他ノ凡テノ動議及提議ハ評議員會ノ意見及提出者ノ簡單ナル説明ヲ聽取シタル後三分ノ二ノ多數ヲ以テ其ノ討論ヲ可決シタル場合ニ限り之ヲ本會議ノ討論ニ付スルコトヲ得

第十條 投票權ハ現ニ出席議員ノミ之ヲ有ス

各議員團ノ有スル投票數ハ左ノ規則ニ從ヒ之ヲ定ム

一、各議員團ハ最少限五票ヲ有ス

二、前項ノ外左ノ人口ヲ有スル議員團ハ更ニ次ノ如ク投票權ヲ追加ス

百萬未満ノ人口ヲ有スル國ノ議員團 一票

百萬以上三百萬未満 二票

三百萬以上六百萬未満 三票

六百萬以上九百萬未満 四票

九百萬以上千二百萬未満 五票

- 千二百萬以上千六百萬未滿 六票
- 千六百萬以上二千萬未滿 七票
- 二千萬以上二千五百萬未滿 八票
- 二千五百萬以上三千萬未滿 九票
- 三千萬以上三千六百萬未滿 十票
- 三千六百萬以上四千二百萬未滿 十一票
- 四千二百萬以上四千九百萬未滿 十二票
- 四千九百萬以上五千六百萬未滿 十三票
- 五千六百萬以上六千四百萬未滿 十四票
- 六千四百萬以上七千二百萬未滿 十五票
- 七千二百萬以上八千百萬未滿 十六票
- 八千百萬以上九千萬未滿 十七票
- 九千萬以上一億未滿 十八票
- 一億以上一億五千萬未滿 十九票
- 一億五千萬以上二億未滿 二十票

- 二億以上二億五千萬未滿 二十一票
- 二億五千萬以上三億未滿 二十二票
- 三億以上三億五千萬未滿 二十三票

殖民地議員團ノ投票數ハ母國選出議員カ代表スル人口ノ平均數ニ殖民地選出議員數ヲ乘シタル假定數ヲ殖民地人口ト看做シ計算ス

殖民地ノ人口ハ該殖民地カ母國議會ニ代表者ヲ出セル場合ニ在リテハ母國ノ人口ニ加算ス此ノ場合ニ於ケル殖民地人口ハ母國選出議員カ代表スル人口ノ平均數ニ殖民地選出議員數ヲ乘シタルモノヲ以テ其ノ殖民地ノ人口ト看做ス

三、下院議員ノ五割以上ノ團員ヲ有スル議員團ハ一票其ノ六割以上ヲ有スルモノハ二票其ノ七割五分以上ヲ有スルモノハ三票其ノ九割以上ヲ有スルモノハ四票ヲ追加ス
 評議員會ハ同盟會議ノ召集ニ方リ各議員團ニ對シ其ノ有スル投票數ヲ通知ス
 必要ナル場合各議員團ノ同盟會議列席議員ハ議員中投票權ヲ行使スヘキ者ヲ指名スヘシ
 該指名ハ比例代表ノ方法ニ依リ之ヲ爲シ一議員ハ五票以上ノ投票權ヲ行使スルコトヲ得ス
 投票ハ舉手ニ依リ之ヲ行フ會議ニ出席セル各議員ハ氏名點呼投票ノ結果ハ之ヲ會議録ニ記入スヘシ

役員ノ選舉ニ關スル投票ハ議員二十名以上ノ請求アラハ祕密投票ニ依リ之ヲ行フヘシ

第十一條 會議ノ議事録ハ他ノ一切ノ書類ト共ニ之ヲ列國議會同盟事務局記録所ニ保管ス

第三章 列國議會同盟評議員會

第十二條 列國議會同盟評議員會ハ正當ニ組織セラレタル各國議員團ヨリ少クトモ會議開會一箇

月以前ニ各議員團ノ任命シタル二名宛ノ議員ヲ以テ組織ス

此等ノ任命ハ列國議會同盟事務局ニ通知セラレ事務局ハ之ヲ同盟會議ニ通知ス評議員ノ任期ハ

一會議ヨリ次會議迄繼續ス

二名ノ評議員中少クトモ一名ハ國會議員タルコトヲ要ス

評議員ノ死亡又ハ辭職シタルトキハ其ノ所屬議員團ハ之カ補充ヲ爲スヘシ

同盟ノ議員ニシテ曾テ同盟會議ノ議長タリシ者ハ名譽評議員トシテ發言權ノミヲ有ス

第十三條 新ニ任命セラレタル列國議會同盟評議員ハ本會議開會後評議員會組織ノタメ會合シテ

議長ヲ互選スヘシ

第十四條 評議員會ノ權限左ノ如シ

- 一、評議員會規則ノ制定
- 二、所屬議員團ノ提議ニ係ル前國會議員ヲ同盟議員ト爲スコトノ認可(第四條)

三、列國議會同盟會議ノ召集

四、會議ノ議事日程及調査委員會提出議案以外ノ議案ノ決定

五、常任又ハ臨時調査委員會ノ設置

六、同盟規約改正案ニ對スル意見ノ開陳

七、同盟會議議長及副議長ノ推薦

八、執行委員會委員ノ推薦

九、次回同盟會議開催地指定

十、同盟會計主任及書記長ノ任命

十一、贈與及遺贈受諾ノ決定

十二、歲計豫算ノ決定

十三、毎年會計検査員二名ヲ任命シ其ノ報告ニ依リ會計主任ノ提出スル決算ヲ承諾スルコト

十四、凡テ列國議會同盟ノ目的達成ニ必要ナル手段方法ノ採用

第四章 列國議會同盟事務局

第十五條 列國議會同盟事務局ハ列國議會同盟ノ處理及執行ノ機關トス而シテ同盟規約ニ遵ヒテ
評議員會ノ委任シタル職務ヲ遂行ス

第十六條 列國議會同盟事務局ハ異レル議員團ヲ代表スル五名ノ議員ヲ以テ組織スル執行委員會ニ依リ指揮セラル

評議員會ノ議長ハ當然執行委員會ノ委員タリ且ツ其ノ委員長タルモノトス他ノ委員ハ本會議ニ於テ評議員會ノ委員中ヨリ之ヲ選舉ス委員ノ一名ハ同盟會議毎ニ辭任スルモノトス辭任議員ハ二年間再選セラルルコトヲ得ス他ノ議員團ノ評議員ヲ以テ之ヲ補充スヘシ
委員死亡若ハ辭任シタルトキ又ハ評議員會議長ニ選舉セラレタルトキハ評議員會ハ其ノ後任者ヲ指名ス其ノ任期ハ確定的選舉ヲ行フヘキ次回ノ同盟會議迄トス
新任委員ノ辭任順位ハ前任委員ノ順位ヲ繼承ス

第十七條 列國議會同盟事務局ノ權限左ノ如シ

- 一、各國議員團員名簿ノ保管及議員團組織ノ獎勵
 - 二、各國議員團相互ノ關係上其ノ中央機關ト爲ルコト
 - 三、評議員會及本會議ニ提出スヘキ問題ノ準備及必要書類ノ頒布
 - 四、評議員會及本會議ニ於テ議決セラレタル事項ノ執行
 - 五、同盟文庫管理及國際仲裁裁判其ノ他同盟ノ目的ニ關スル書類ノ蒐集
- 同盟事務局事務ハ評議員會ノ任命セル幹事長之ヲ掌理ス

第五章 規約改正

第十八條 規約ノ改正ハ文書ニ依リ少クトモ同盟會議開會三箇月以前ニ之ヲ列國議會同盟事務局ニ提出スヘシ

事務局ハ直ニ之ヲ各國議員團ニ通知シ修正案アル場合ニ於テハ少クトモ同盟會議開會一箇月以前ニ之ヲ各國議員團ニ通知ス

列國議會同盟本會議規則 (一九二四年八月ベルン及ヂュネーブ會議ニテ改正セラレタルモノニテ現行規則ナリ)

第一條 議會同盟會議ハ評議員會ノ反對決議ナキ限り毎年一回之ヲ開催ス場所日時ハ評議員會之ヲ決定ス成ル可ク前會議ニ於テ決定スヘシ

會議招集狀ハ少クトモ開會三ヶ月前迄ニ議員團ニ通達セララルヘキモノトス

第二條 評議員會ノ決議ニ依ルカ又ハ少クトモ六議員團以上ノ請求アル場合ハ臨時會議ヲ開催シ得此ノ場合ニハ評議員ハ幹事長カ右ノ請求ヲ受理シテヨリ四十日以内ニ本會議ヲ招集ス

第三條 本會議開催地ノ議員團ハ事務局幹事長ト共ニ開會準備ノ掌ニ當ルヘシ評議員會ハ場合ニ依リ會議開催費用ノ一部ヲ列國議會同盟及各議員團ニ分擔セシムルコトアルヘシ會議出席議員ハ評議員會ノ決定スル個人據金割當額ヲ支拂フモノトス同據金ハ議員カ同會議ニ出席ヲ通告スルト同時ニ支拂フヘキモノトス

第四條 會期ハ評議員會カ會議開催地議員團ト協議ノ上之ヲ決定ス普通會期ハ少クトモ五日間以上トス

議事日程ニ上程サレタル問題ハ緊急ナル場合ノ外ハ開會後ノ會議ニ何時ニテモ討議ニ付シ得ル
常任又ハ特別委員會ニ提出ス

第五條 特別ノ事情突發セサル限り幹事長ハ各議員團ニ送付スヘキ各種委員會ノ報告書ヲ開會一箇月前迄ニ到達スル様監督ス各委員會ハ議事日程ニ上程セラレタル各問題毎ニ一名乃至數名ノ

説明委員ヲ任命ス

第六條 會議ハ評議員會議長又ハ其ノ不在ノ時ハ開會地議員團ノ選定セル臨時議長之ヲ開會ス

本會議ニ於テハ其ノ議長副議長及投票検査委員ヲ選定ス副議長數ハ出席議員團數ニ等シ(規約

第八條)

第七條 會議ニ於ケル討論ハ公開セラルヘキモノナリ但シ三分ノ二以上ノ決議又ハ出席議員ノ身上ニ係ル討論ノ場合ハ此ノ限ニ非ス

第八條 各會議ハ評議員會ノ名ニ於テ幹事長ヨリ提出シタル報告書ヲ基礎トシテ一般的討論ヲ開

始ス本報告ノ一部ハ世界ノ一般政治状態ニ關スルモノアルヘシ
三分ノ二以上ノ反對決議ナク又豫備討議ナキトキハ一般討論ハ三度以上繼續スルコトヲ得ス

第九條 議長ハ會議ノ開會停會延長其他ノ事務ヲ指揮シ又規則ノ遵守ヲ監督シ演說者ノ指名閉會ノ宣言票決ニ付スルコト及採決ノ結果ヲ報告ス

事務局職員ハ會議中委員會ノ設立決議ニ基ク通報事務各會議ニ對スル議事日程ノ決定議事順序決定等ノ庶務ニ付議長ヲ補佐ス

第十條 議長ノ許可ヲ以テ始メテ發言シ得同一問題ニ付二回以上發言スヘカラス
各演說者ノ論說時間ハ何等討議ヲ用井ス會議ノ決議ヲ以テ制限セラルト雖モ會議ヨリ依囑セラレタル問題ノ提案報告者ニ對シテハ適用サレス尙必要ト認ムル時ハ何時ニテモ討論ニ参加スルコトヲ得

其ノ他ノモノニ對シテハ一般討論規定ヲ準用ス

議長ハ説明カ討論主題外ニ及フ時ハ注意ヲ促シ必要ト認ムル時ハ發言ヲ停止スルコトアルヘシ
議事進行ニ付發言ヲ求ムルモノアル時ハ議長ハ之ニ發言ヲ與ヘ直ニ投票ニ付ス

第十一條 幹事長ハ會議事務局及委員會事務局ノ組織ニ對シテ其ノ責ニ任ス

幹事長ハ會議開會中一名乃至數名ノ代理人ヲシテ代理セシメ又事務ヲ補佐セシム
幹事長又ハ其ノ代理人ハ議長ノ請求アル時ハ何時ニテモ會議ニテ審議中ノ如何ナル議案ノ補足報告書ヲモ會議ニ提出ス議長ハ幹事長又ハ其ノ代理人ヲシテ會議ニ提出スヘキ問題ノ口頭通知

ヲ爲サシム

第十二條 會議事務局ハ凡テノ書類報告書決議等ヲ受ケ是等ヲ印刷配付シ又各會議ノ議事録ヲモ印刷配付シ議會同盟記録トシテ會議ノ書類ヲ保存シ各會議ノ報告ヲ刊行シ且ツ一般ニ會議ヨリ委託セラレタル義務ヲ實行ス

第十三條 會議議事日程ハ評議員會ニ依リテ決定セラル議事日程ニ關スル動議決議案修正案等ハ適當ノ時期ニ書面ヲ以テ議長ニ通告シ出席各議員團ニハ出來得ル限リ速ニ之等ノ寫ヲ配付スヘシ

議事日程ニ上程セサル決議案及動議ハ評議員會ノ意見及提案者ノ概略説明ヲ聽取シ三分ノ二以上ノ多數カ同意シ之ヲ審議スルニ決シタル後ニ於テノミ討論ヲ爲シ票決メルコトヲ得

第十四條 會議ノ議決ハ投票權アル出席議員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス役員選舉ノ場合ニ於テ何レノ候補者モ過半數ノ得票ナカリシトキハ最大多數ノ得票者一名ノ中ニ於テ無記名投票ヲ行フヘシ

該無記名投票ノ結果ハ會議ニ於テ選定セル投票検査委員確認ス

第十五條 投票ハ舉手又ハ出席議員ノ要求アル時ハ點呼ニ依リテ行ハル役員ノ選舉ハ二十名以上ノ議員ノ要求ナキ時ハ祕密投票ニ依ル(規約十條)

各議員團ハ幹事長ノ許ヘ少クトモ一ヶ月前迄ニ投票スヘキ議員名及其ノ代理者ノ姓名ヲ通知スヘシ

會議ノ始ニ於テ幹事長ハ各投票者ニ其ノ姓名所屬議員團名及投票權ヲ有スル數ヲ記載セルカドヲ付與ス

第十六條 次ノ會議半時間前每會議ノ概略議事録ヲ各議員ノ閱覽ニ供ス會議中ニ於テ各議員ハ議事録ニ對シ反對ヲ唱フルコトヲ得該反對提議ハ直ニ審議ニ付シ採決サル斯ル反對ナキ場合ニハ該議事録ハ承認セラレタルモノト認メラル若シ會議カ祕密會ナル時ハ議事録ヲ作成セサルコトト定ム

諸會議ノ速記録ハ評議員會ノ異議ナキ限リ後日刊行セラル

第十七條 會議ノ閉會ニ際シ議長ハ採擇サレタル主ナル議案ヲ列記シ各議員團ハ之ヲ法案動議質問又ハ其ノ他適當ナル形式ノ下ニ所屬政府竝ニ議會ヘ提案スルノ義務ヲ有ス

第十八條 本規則ニ規定セラレサル點ニ付テハ一般會議ニ於ケル慣習法ヲ適用スヘシ尙異論アル場合ニ於テハ其ノ都度會議開催國ノ下院規則ヲ準用スヘシ

列國議會同盟評議員會細則

(一九一四年改正ニカカルモノニテ現行規則ナリ)

第一條 評議員會ハ毎年一回開催セラレ其ノ他評議員會議長及執行委員會カ必要ト認ムルトキ又

ハ六名ノ評議員ノ要求アルトキハ評議員會議長之ヲ招集ス

第二條 會議閉會後執行委員會ハ評議員會議長ノ缺席辭職又ハ死去ノ場合代理職務ヲ執行スヘキ者ヲ執行委員中ヨリ一名任命ス

第三條 評議員ハ事故アル時ハ所屬議員團中ノ他ノ議員ニ委任シ代理出席セシムルコトヲ得

第四條 執行委員會ハ會議地及開會日ヲ決定シ議案及必要ナル報告書ヨリ成ル議事日程ヲ定ム評議員ハ議事日程中ニ他ノ議案ノ挿入ヲ要求スルコトヲ得

右ノ如キ要求ハ議事日程ニ線入レラルル爲ニハ同盟事務局ニ少クトモ開會十五日前迄ニ提出スヘシ而シテ此ノ提案ハ至急評議員ニ通告セラルル但該提案受理ノ諾否ハ執行委員會ノ意見ヲ徵シタル後評議員會三分ノ二以上ノ多數投票ニ依リテ決セラル

第五條 一般決議ハ多數決ニ依リ各評議員及代理者ハ一人一票ノ投票權ヲ有ス

第六條 幹事長ハ議長ノ承認シ署名シタル議事録ヲ保管ス其ノ寫ハ各評議員ニ一部宛配布セラル

第七條 同盟事務局ハ評議員會ノ決議ノ實行ヲ掌ル

第八條 同盟事務局ハ列國議會同盟ト同様ノ目的ヲ有スル國際的團體及機關ヨリノ報告並ニ刊行物ヲ受理分類スル事務ヲ掌ル而シテ右ニ關スル報告ヲ幹事長ノ年報中ニ記載スヘシ

第九條 前條ニ掲ケタル國際機關又ハ國際團體ヨリノ需ニ應シ各國政府又ハ議會ノ干涉ヲ許ス性質ヲ帶フル協約又ハ國際法規ニ依ル司法手段方法等ニ付評議員會ハ評議スルコトヲ得

必要ナル場合該招請狀ハ事務局ニ提出セラルヘシ

執行委員會ハ其ノ對策方法ヲ評議員會ニ通告スルト共ニ議會同盟又ハ各議員團ノ採ルヘキ方策並該問題ニ對スル討議時期等ニ付委員會ノ意見ヲ開陳スヘシ

本會議ヘノ年次報告中ニハ之ニ關シテ爲シタル手段並ニ其結果ヲモ報告スヘシ

第十條 評議員會閉會中ニ於テハ評議員會議長及執行委員會ハ必要ニ應シ書面ニ依テ各評議員ニ諮ル

但評議員會ノ可否票決ハ評議員會ニ席ヲ有スル議員團半數ノ回答ヲ得ルコトヲ要ス

第十一條 評議員會ハ執行委員會ノ提案ニ依リ毎年ノ收支豫算ヲ決定ス會計官ノ收支決算表ハ監査ノ後毎年評議員會ノ協贊ヲ經ルヲ要ス

第十二條 同盟事務局ハ毎年本會議ヘ評議員會ノ決議記録並ニ前會議決議ノ結果ヲ報告ス但シ該報告ハ本會議ニ提出前評議員會ニ通告セラルヘキモノトス

列國議會同盟事務局規定 (一九一〇年九月) 評議員會決議

第一條 列國議會同盟事務局ハ列國議會同盟ノ統括並ニ執行機關ニシテ同盟規約ニ從ヒ評議員會

ヨリ依託セラレタル事務ヲ行フ

第二條 執行委員會ハ事務局ヲ監督シ年度内ノ事務局ノ實行スヘキ事務内容ヲ決定シ之ヲ評議員會ニ報告ス

執行委員會ノ一名ノ委員ハ少クトモ毎年二度事務局ヲ檢閲スヘシ

第三條 事務局ハ評議員會ノ任命スル幹事長ノ管理スル所ニシテ任期ハ四年トシ再選シ得ラル其ノ任命條件ハ評議員會之ヲ定ム

第四條 幹事長ハ執行委員會ノ承認ヲ經テ必要ナル使用人ヲ雇入レ又ハ罷免ス

第五條 幹事長ハ當該事務ニ專任スル義務アリ何國ノ議會議員タルコトヲ得ス

第六條 幹事長ハ執行委員會監督ノ下ニ事務ヲ掌理シ執行委員會ノ命ニ依リテノミ旅行ヲ爲スコトヲ得

第七條 幹事長ハ評議員會及執行委員會ニ出席シ票決權ナク單ニ發言權ノミヲ有シ且本會議ニ出席シ議事録ヲ編ス

第八條 幹事長ハ議會同盟會議閉會後一箇月以内ニ各議員團ニ會議ニ於テ採擇シタル各種決議案ノ本文及役員任命等ノ會議議長ノ署名シタル報告回章ヲ配付スヘシ

第九條 幹事長ハ毎年一月中ニ執行委員會ニ事務局ノ事務報告ヲ爲シ二箇月毎ニ執行委員會各委

員ニ概略報告書ヲ配付スヘシ

第十條 評議員會ハ事務局ニ對シ最高ノ監督權ヲ行フ

第九條ニ掲ケタル年報ハ執行委員會ノ檢閲ヲ經テ更ニ評議員會ニ回付セララル

列國議會同盟會計規則（一九一〇年九月一） 日評議員會決定

第一條 會計主任ハ取扱收納金ハ直ニ之ヲ記載シ執行委員會指定銀行ノ議會同盟貸方部ニ拂込ムヘシ

第二條 凡テノ必要ナル經費ノ支辨ハ會計主任振出ノ小切手ヲ以テス

第三條 豫算ニ計上サレタル範圍内ノ給料家賃及其ノ他ノ雜費ハ幹事長承認ノ領收證ト引替ニ支拂ハル

第四條 其ノ他ノ支拂ハ評議員會議長ノ承認ヲ得テ幹事長發行ノ委任狀ニ依テ爲サル

第五條 毎年一月十五日迄ニ會計係ハ議長ニ前年度ノ決算書ヲ提出ス該決算書ハ會計検査員ノ檢査ヲ受ケタル後最近ノ評議員會ニ付議シテ其ノ承認ヲ經ヘシ

執行委員會細則（一九〇九年十一月二日） 執行委員會ニテ採用

第一條 列國議會同盟評議員會議長ハ同時ニ執行委員會委員長タリ委員長事故アル場合ニハ其ノ會議中ノミ假委員長ヲ任命シテ代理セシム幹事長ハ委員長ノ承認署名セル議事録ヲ保管ス會議

後右ノ寫ハ一部宛各委員ニ配付セラレヘシ

第二條 執行委員會ノ決議ハ委員會ノ席上ニ於テ爲ス緊急ノ場合ニハ委員長ハ通信ニ依リ各委員ト評議スルコトヲ得其ノ可否ノ決議ヲ得ル爲ニハ少クトモ三名以上ノ賛成アルコトヲ要ス

第三條 執行委員會ハ委員長カ必要ト認ムルカ又ハ二名以上ノ委員ノ請求アル場合ニ之ヲ招集ス

一 委員事故アル時ハ他ノ評議員會委員ヲ以テ代理セシム評議員會閉會中ニ於テ死亡辭職等ノ事故アル場合ニ於テモ亦同シ執行委員會ハ三名以上委員ノ出席アルニ非レハ開會シ得ス

第四條 列國議會同盟會計主任ハ執行委員會ノ會議ニ出席シ發言權ノミヲ有ス

第五條 執行委員會ハ列國議會同盟事務局ノ指揮權ヲ有ス執行委員會委員長ハ事務局事務ヲ監督ス他ノ四名ノ委員ハ左ノ各分課ノ事務ヲ夫々分擔監督ス

一 新議員團成立ノ組織及現議員團ノ改造問題事務局對議員團關係事務幹事長ノ旅行等

二 列國議會同盟ト各國政府及外交會議トノ關係

三 列國議會同盟會議ノ準備研究スヘキ諸問題調査委員會問題刊行物等

四 各議員團ノ所屬議會ニ於ケル宣傳事業各議員團相互ノ關係臨時會議開催議會訪問等

調査委員會細則（一九二二年四月二十 八日評議員會決定）

第一條 評議員會ハ必要ニ應シテ調査委員會ヲ組織ス常任又ハ臨時的ノモノトス

評議員會ハ自ラ凡テノ調査委員會委員ヲ任命シ又ハ其任命權ヲ執行委員會或ハ各議員團ニ委任ス而シテ之等執行委員會及議員團ハ各一名ツツノ委員ヲ任命ス

第二條 多クノ常任委員會ハ每本會議ノ都度會合シ各委員會ハ三名乃至五名ヨリ成ル起草委員會ヲ組織シ調査委員會ノ委員長ハソノ委員ニシテ同時ニ起草委員會委員長タリ

調査委員會ハ各本會議毎ニ起草委員會ヲ改選ス委員ハ再選サルコトヲ得尙評議員會ハ必要ニ應シ起草委員ノ任命ヲ執行委員會ニ委任スルコトヲ得

第三條 起草委員會ハ調査委員會ノ名ニ於テ次回ノ本會議ニ提出セラレヘキ決議案及報告書ノ準備ヲ爲シ同時ニ各問題ノ説明委員ヲ任命ス

起草委員ハ本會議閉會中ハ他ノ調査委員ト質問録等ニ依リ互ニ書面ヲ以テ協議ヲ爲ス

第四條 起草委員會ハ本會議閉會中ハ議會同盟費ヲ以テ會合スルコトヲ得委員長之ヲ招集ス

第五條 調査委員會ハ三名以上ノ委員ノ反對アル時未タ討議サレズ且ツ完全ニ承認サレサル報告ヲ本會議ニ提出スルコトヲ得ス

第六條 小委員會又ハ臨時委員會及其ノ委員長等ハ評議員會又ハ評議員會ノ決議ニ依リ執行委員會之ヲ任命ス之等委員會ハ常任委員會ノ起草委員會ト同様ノ權利義務ヲ有シ各委員長之ヲ招集

第七條 調査委員會ハ本會議ノ議事日程ニ一問題カ上程サレタル時ハ其説明委員ヲシテ直接本會議ニ其問題ニ對スル提案ヲ提出セシム

第八條 同盟事務局ハ調査委員會ノ事務取扱ヲ爲シ且公文書ノ保管ヲ爲ス

三、列國議會同盟本會議開會年度表

西曆	日曆	會期	場所	期日	日本議員團代表者出席人員	摘要
一八八八	明治 二二	一	巴里	自六月二十九日 至六月三十日		我國議員團加入スルニ至ラス
一八九〇	二三	二	倫敦	自七月二十二日 至七月二十三日		同
一八九一	二四	三	羅馬	自十一月三日 至十一月七日		同
一八九二	二五	四	ベルリン	自八月二十九日 至八月三十一日		同
一八九四	二七	五	海牙	自九月四日 至九月六日		同

列國議會同盟本會議開會年度表

一八九五	二八	六	ぶりゆくせる	自八月十三日 至八月十五日		同
一八九六	二九	七	ぶたペすと	自九月二十三日 至九月二十五日		同
一八九七	三〇	八	ぶりゆくせる	自八月十一日 至八月十七日		同
一八九九	三二	九	くりすちあにあ	自八月四日 至八月二日		同
一九〇〇	三三	一〇	巴里	自七月三十一日 至八月三日		同
一九〇三	三六	一一	維納也	自九月七日 至九月九日		同
一九〇四	三七	一二	米國 せんどのいす	自九月十二日 至九月十四日		同
一九〇五	三八	一三	ぶりゆくせる	自八月二十八日 至八月三十一日		同
一九〇六	三九	一四	倫敦	自七月二十三日 至七月二十五日		但一己ノ議員資格ニ於テ參列ス
一九〇八	四一	一五	伯林	自九月十日 至九月十二日	一	
一九一〇	四三	一六	ぶりゆくせる	自八月二十九日 至九月一日	一一	外ニ同行書記官(津久井)一、
一九一一	四四	一七	羅馬馬	自十月三日 至十月五日	七	流行病發生ノ爲會議延期トナリ内ニ名タケ評議員會ニ出席
一九一二	大正 元	一七	ぢゆねーが	自九月十八日 至九月二十日		明治大帝崩御ノ爲

西曆	日曆	會期	場所	期日	日本議員團代表者出席人員	摘要
一九一三	二	一八	海牙	自九月五日	五	
一九一四	三	一九	すどつくほるむ	自八月十九日 至八月二十一日	七	歐洲動亂ノ爲メ會議延期トナリ中途引返シ歸朝
一九二一	一〇	一九	すどつくほるむ	自八月十七日 至八月十九日	四	
一九二二	一一	二〇	維納也	自八月二十八日 至八月三十日	五	外ニ同行書記官(田口)一、
一九二三	一二	二二	こぼんばーぐ	自八月十五日 至八月十七日	五	外ニ同行書記官(土岐)一、
一九二四	一三	二二	ぢゆねーぐん	自八月二十八日 至八月二十八日		帝都大震火災ノタメ
一九二五	一四	二三	お華盛頓	自十月一日 至十月十三日	九	外ニ同行書記官(田口)一、

四、列國議會同盟豫算並各國分擔年釀金表

(一) 一九二五年度(大正十四年)豫算

收入

一九二四年度剩餘金 一〇、八〇五・一五_法

一九二四年度滯納金拂込總額 一七、三八三・一〇

計

各議員團年釀金並補助金豫定額 二八、一八八・二五

べるん總會ニ於ケル決議ニ依ル各國議員團 九四、五〇〇・〇〇

補助金並二年釀金増額ノ結果增收總額 二六、二五〇・〇〇

刊行物賣上並利益金豫定額 一、〇六一・七五

總計

支出

手當及退職資金 六二、五〇〇・〇〇

家賃 五、五〇〇・〇〇

家具及保險 一一一、〇〇〇・〇〇 (各國分擔年釀金並補助金)

旅行費 一〇、〇〇〇・〇〇

印刷費 一三、〇〇〇・〇〇

圖書費 四一、五〇〇・〇〇 (大正製本)

事務費 一〇六、〇〇〇・〇〇

總會費 五、〇〇〇・〇〇

準備金

一、〇〇〇・〇〇

計

一〇六、五〇〇・〇〇

差引剩餘金

四三、五〇〇・〇〇(次年度へ繰越)

(二) 一九二六年度(大正十五年)豫算

収入

一九二六年度年釀金並補助金

一二〇、一五〇・〇〇(各國分擔年釀金表參照)

刊行物賣上及利益金

一、二〇〇・〇〇

一九二五年度剩餘金

四三、五〇〇・〇〇

計

一六四、八五〇・〇〇

支出

手當及退職資金

七一、〇〇〇・〇〇

家賃

二七、五〇〇・〇〇

家具及保險

二、〇〇〇・〇〇

旅行費

一四、〇〇〇・〇〇

印刷費

一一、〇〇〇・〇〇

各國分擔年釀金並補助金表(一九二六年度調)

獨逸

九、〇〇〇^法

米國

三〇、五〇〇

埃國

五〇〇

白國

未定

ふるがりや

一、〇〇〇

加奈陀

一一、〇〇〇

圖書費
事務費
總會費
準備金
積立準備金
計
差引剩餘金

一、五〇〇・〇〇
六、〇〇〇・〇〇
五、〇〇〇・〇〇
二、〇〇〇・〇〇
二〇、〇〇〇・〇〇
一五〇、〇〇〇・〇〇
一四、八五〇・〇〇(次年度へ繰越)

未定

丁 抹	三三、三〇〇
埃 及	五、〇〇〇
西班牙	未定
ポルトガル	五〇〇
佛 國	三六、〇〇〇
芬 蘭	一、〇〇〇
英 國	一〇、〇〇〇
希 國	未定
匈 牙 利	一、〇〇〇
蘭 領 印 度	六、一〇〇
愛 蘭	一、〇〇〇
伊 國	五、〇〇〇
日 本	一〇、〇〇〇
れとにあ	七五〇
りつあにあ	五〇〇

諾 威	一一、二五〇
和 蘭	三、〇〇〇
ふいりつびん	四、〇〇〇
波 蘭	三、〇〇〇
羅 馬 尼	三、〇〇〇
せるぐ、くろあーと、すろがゑーぬ	二、〇〇〇
瑞 典	四、七五〇
ちろくすろがゑく	二、〇〇〇
瑞 西	二、〇〇〇
三 計	一一〇、一五〇

五、第一回乃至第二十三回 列國議會同盟本會議決議要項

●第一回(一八八九年)巴里總會(自六月二十九日至同月三十日)

議長 ふれでりつくばしし氏

(佛國議員)

出席國 九 箇國議員國

出席員 九 名

決議案一八八六(年)巴黎會議(自六月二十一日至同月三十日)

第一、義務的仲裁裁判普及ニ努力セムコトヲ決議ス

第二、米佛、米伊、米西間ニ義務的仲裁裁判條約締結ニ付満足ノ意ヲ表示ス

第三、各國間ニ締結ノ通商條約、著作權條約其他ノ條約中ニ義務的仲裁裁判適用ノ條項ヲ挿入セ

ムコトヲ決議ス

第四、仲裁裁判所設立ノ爲メ列國ノ研究ヲ促ス

第五、議會同盟總會ヲ毎年同盟國ニ開催シ次回總會開催地ヲ倫敦ニ選定ノコトヲ決議ス

第六、議會同盟委員會ハ次回總會ノ準備並ニ紛争國間ニ於ケル周旋、調停ノ勞ヲ執ルコトヲ決議ス

ス

第七、議會同盟員タル議員ハ國際平和及仲裁裁判ノ爲メニ努力スヘキコトヲ決議ス

●第二回(一八九〇年)倫敦總會(自七月二十二日至同月二十三日)

議長 ろーど、はーしゆる氏(Lord Harshell)

(貴族院議員)

出席國 十 箇國 (Prinsen)

●第三回(一八九一年)羅馬總會(自十一月三日至同月七日)

決議案

第一、米合衆國仲裁裁判條約加入ニ付満足ノ意ヲ表示ス

第二、諾威、西班牙、伊太利ノ仲裁裁判加入ニ付満足ノ意ヲ表示ス

第三、仲裁裁判條約改訂並平和的紛争處理方法適用獎勵ニ付列國ヲ促ス

第四、仲裁裁判條約改訂サルル迄通商條約中ニ仲裁裁判條項ノ挿入ヲ決議ス

第五、列國議會同盟委員會組織ノ件ヲ決議ス

第六、次會總會開催地ヲ羅馬ニ選定ス

●第三回(一八九一年)羅馬總會(自十一月三日至同月七日)

議長 ビアンチーリ氏(Biancheri)

決議案

第一、各國議會同盟會出席國 七 箇國

出席員 百三十六名

決議案

第一、總テノ議院制度ノ國家ハ歐洲國際會議ニハ將來可成ク代表者ヲ派遣スヘキコトヲ要望ス

第二、列國議會同盟事務局設置ノ件ヲ決議ス

第三、仲裁裁判所組織案ヲ次會總會ニ提出スルコトヲ決議ス

●第四回(一八九二年)べるん總會(自八月二十九日至同月三十日)

議長 ゴバト氏(Gobat)

第六、大會協會開議(瑞西國政參事會議員)

第五、出席國 十 三 箇 國

第四、出席員 百 七 名

決議案

第一、戰時ニ於ケル海上所有權及國際公法ヲ確認スヘキコトヲ要求ス

第二、總テノ外交條約中ニ仲裁約款ヲ挿入スヘキコトヲ要求ス

第三、仲裁裁判條約改訂ニ付各議員團ハ各自議會ニ協贊ヲ經ヘキコトヲ要望ス

●第五回(一八九四年)海牙總會(自九月四日至同月六日)

議長 ラウゼン氏(Rausen)

(和蘭國上院議員)

出席國 十 五 箇 國

出席員 百 五 十 三 名

決議案

第一、特別委員會ヲ組織シ總會準備事務及國際仲裁裁判組織案ヲ委託スヘキコトヲ必要ト認ム

第二、議會同盟事務局組織ニ關シ改正ノ必要ヲ認ム

第三、平和的紛争處理方法トシテノ國際會議ヲ隨時開催スヘキコトヲ要求ス

第四、「こんふゑらんす、あんてるばる、るまんでーる」ヲ發行スルコトヲ必要ト認ム

●第六回(一八九五年)ぶらつせる總會(自八月十三日至同月十五日)

議長 Descamp)

(白耳義國上院議員)

出席國 十 四 箇 國

出席員 六 十 名

決議案

第一、國際仲裁裁判規約案改正ノ必要ヲ認メ之ヲ委員會ニ付託スルコトヲ決議ス

- 第二、永世局外中立ニハ列強ノ承認ヲ經ヘキコトヲ決議ス
- 第三、世界聯盟及國際事務局ノ設立ヲ便利ナリト認ム
- 第四、佛國政府カ米國政府ト仲裁裁判條約締結ニ付満足ノ意ヲ表ス
- 第五、諾威政府カ二〇〇〇法ノ寄附金ヲ議決シタルコトニ付満足ノ意ヲ表ス

●第七回(一八九六年)ぶたべすと總會(自九月二十三日至同月二十五日)

議長 すちらざ氏 (Stlazy)

●第六回(一八九五年)匈牙利國上院議長(自八月二十五日)

出席國 十 五箇國

出席員 三 百 五 名

決議案

- 第一、外國人ニ對シテ法律上平等ノ地位ヲ認ムルコトヲ要求ス
- 第二、列國議會同盟ハ特ニ中立ニ關スル問題ヲ研究スヘキコトヲ要望ス
- 第三、列國議會同盟總會決議實現ニ付各議員團ノ努力スヘキコトヲ要求ス
- 第四、國際司法裁判所ノ組織ニ付歐洲列國ト協議スヘキコトヲ要求ス
- 第五、議會同盟總會ハ英米間ニ仲裁裁判條約成立ニ對シ満足ノ意ヲ表ス

第六、規約第六條及規約第十一條ノ加除改正ノ必要ヲ認ム

第七、米國議員團總會ニ出席セサルニ付遺憾ノ意ヲ表ス

●第八回(一八九七年)ぶらつせる總會(自八月七日至同月十一日)

議長 ベーヌなるなる氏 (Beernaert)

(白國下院議長)

出席國 十 四 箇 國

出席員 二 百 十 六 名

決議案

- 第一、議會同盟總會ハ列國カ仲裁裁判組織ニ付協議ヲ爲スヲ奨勵スヘキコトヲ要望ス
- 第二、亞米利加上院議會カ英米仲裁裁判條約調印ニ反對セルニ對シ遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ次回議會ニ於テ速ニ右調印ニ同意セムコトヲ希望ス
- 第三、國際間ニ紛争問題アル場合ニハ議會同盟事務局ハ紛争問題ニ關シ各國ノ意見ヲ徵スル爲メ總會ヲ開クヘキコトヲ決議ス
- 第四、議會同盟總會ハ其ノ團員ヲ必要ノ時機ニ於テ殊ニ仲裁裁判協約ノ場合ニ於テ召集シ得ヘキ

コトヲ要望ス

●第九回(一八九九年)くりすちあにあ總會(自八月二日至同月四日)

議長 じよんらんぞ氏(Jhon Land)

出席國 十八箇國

出席員 二百四十二名

決議案

- 第一、海牙萬國平和會議ヲ繼續スヘキコトヲ要求ス
- 第二、國際法法典ヲ次回總會ニ提出スヘキコトヲ要望ス
- 第三、露國皇帝並政府當局者ニ對シ萬國平和會議開設ノ努力ニ對シ感謝ノ意ヲ表ス
- 第四、萬國平和會議協約ニ關シ議會同盟總會ノ審査權ヲ認ムルコトヲ當然ナリト認ム
- 第五、海牙萬國平和會議決議案ヲ次回總會ニ於テ研究スヘキコトヲ必要ト認ム
- 第六、戰時ニ於ケル海上貨物非侵害問題ニ關シ一層ノ審議ヲ爲スヘキコトヲ必要ト認ム

●第十回(一九〇〇年)巴里總會(自七月三十一日至八月三日)

議長 ふありゑる氏(Fallière)

(佛國上院議長)

出席國 十九箇國

出席員 二百七十六名

決議案

- 第一、戰時ニ於ケル係争國以外ノ國際間ノ平和關係ハ是ヲ神聖ニシテ不可侵ナリトス
- 第二、新聞雜誌同盟ヲ設立スルヲ要望ス
- 第三、仲裁裁判條約締結促進ニ一層努力スヘキコトヲ約ス
- 第四、海牙萬國平和會議ニ於ケル決議ノ一部修正ノ必要ヲ認ム
- 第五、英對北亞弗利加洲戰爭ニ際シ列國ハ海牙萬國平和會議ノ決議ヲ確守スヘキコトヲ申合ハス
- 第六、支那擾亂ニ對スル武裝干涉ノ必要止ムヲ得サル可カラサルヲ認ム
- 第七、海牙萬國平和會議未調印國ニ對シ速ニ調印ヲ促スヘキコトヲ決議ス

●第十一回(一九〇三年)維納也總會(自九月七日至同月九日)

議長 ぷれにゑる氏(Plenier)

(元大藏大臣上院議員)

出席國 十八箇國

出席員 二百八十五名

決議案

第一、仲裁裁判條約ニ依ル國際紛争ノ調停條項ノ適用ヲ益擴張スヘキコトヲ要求ス

第二、海牙萬國平和會議協約二十七條ノ改正ノ必要ヲ認ム

第三、ベルン總會ニ於ケル各決議案ノ審議ヲ次回評議員會ニ於テ爲スコトヲ決議ス

第四、海牙萬國平和會議協約第二十七條紛争事件ノ平和的處理方法適用ノ擴張ヲ促進スヘキコトヲ決議ス

第五、軍備縮少問題ノ研究促進ヲ要望ス

第六、萬國平和會議決議案ヲ尙審議スヘキ必要ヲ認ム

第七、すかんぢなびや半島永世中立ヲ承認ス

第八、列國議會同盟事務局設立ノ必要ヲ認ム

●第十二回(一九〇四年)せんといす總會(自九月十二日至同月十四日)

議長 ほんりかーるぼるとーと氏(Hon Ricardt Bartholdt)

議長 ほんりかーるぼるとーと氏(米國下院議員)

出席國 十 五 箇 國

出席員 百 四 十 八 名

決議案

第一、日露間戰雲危キニ付居中調停ヲ爲スヘキコトヲ決議ス

第二、海牙萬國平和會議ニ於ケル仲裁裁判ノ條項ヲ加除改正スヘキコトヲ要望ス

第三、英佛間ノ仲裁裁判條約締結ニ關シ満足ノ意ヲ表ス

第四、列國議會同盟ノ行動ニハ世界列國間ノ平和維持ノ爲メニ努力スヘキモノナリ

●第十三回(一九〇五年)ぶらつせる總會(自八月二十八日至同月三十一日)

議長 ベーエるなえーる氏(Bernaert)

出席國 十 九 箇 國

出席員 二百 六 十 二 名

決議案

第一、白耳義國憲政第七十五年記念ニ對シ祝意ヲ表示ス

第二、仲裁裁判條約案研究委員會設立ノ必要ヲ認ム

第三、一八九九年總會ヨリ送致ノ決議案ヲ第二回海牙萬國平和會議ニ於テ審議スヘキコトヲ要求ス

第四、第二回海牙萬國平和會議ニ於テ仲裁裁判條約ニ關スル露ノ原案ヲ再審議スヘキコトヲ
決議ス

第五、極東ニ於ケル戰亂(日露戰役)ニ對スル、大統領るゝざぐると氏ノ調停ニ協力シ戰爭繼續ニ
付テ何等ノ補助ヲ與ヘサルコトヲ申合ハス

●第十四回(一九〇六年)倫敦總會(自七月二十三日至同月二十五日)

議長 うゑーでーる男爵(Baron Weardule)

(上院議員)

出席國 二十 三箇國

出席員 六百 二十九名

決議案

第一、萬國平和會議ヲ永世的且定期性ノモノトシメ國際法ノ確立ト確保ノ爲理事會ヲシテ之ヲ
研究セシムルコトヲ決議ス

第二、仲裁裁判條約ヲ第二回海牙萬國平和會議ニ於テ再審議スヘキノ必要ヲ認ム

第三、前總會議長ハ列國議會同盟評議員會名譽評議員ト爲スヘキモノトス

第四、仲裁裁判條約中ニ國家ノ獨立及個人的利益ヲ確保スヘキ條項ノ挿入ヲ決議ス

第五、軍備縮少問題ノ研究促進ヲ要求ス

第六、議會同盟分擔金ヲ釀出スヘキコトヲ決議ス

第七、戰事國際法規中一部改正ノ必要ヲ認ム

●第十五回(一九〇八年)伯林總會(自九月十七日至同月十九日)

議長 しょなしひ、かろらす公爵(Prince Schoenaieh Carolath)

出席國 十 八箇國

出席員 六 百 六 名

決議案

第一、第三回萬國平和會議ニ提出セラル可キ問題特ニ一九〇六年ノ倫敦總會ニ於ケル懸案ヲ解決
スヘキコトヲ各國議員團ニ要望ス

第二、確立的義務的仲裁裁判條約締結ノ必要ヲ認ム

第三、居中調停ヲ普及獎勵スヘキコトヲ決議ス

第四、米國議員ばると氏ノ提案ヲ研究委員會ニ上提ヲ決定ス

一、軍備縮少及國際法規ノ發展問題

二、國際司法裁判所ニ關スル委員會設立

第五、國際爲替手形ニ關スル法規制定ヲ希望ス

第六、戰時國際法中左ノ諸點ニ付キ第三回平和會議ノ承認ヲ經ヘキコトヲ希望ス

一、戰時禁制品ハ武器軍需品戰時食糧品ニシテ交戰國ニ宛テタルモノ

二、戰時禁制品ヲ搭載セサル船舶ハ不可侵トス

三、個人財産ハ不可侵トス

第七、第三回海牙萬國平和會議ハ國際公法ノ確保ニ努力セムコトヲ希望ス

第八、列國議會同盟事務局ノ組織竝ニ設備ノ整ヘル書記局設立ノ爲メ議員團ヨリ年釐金ヲ納付セ

ラレ度キコトヲ決議ス

●第十六回(一九一〇年)ぶらつせる總會(自八月三十日至九月一日)

議長

ベーエるなえーる氏(Bernaert)

(白耳義國國務大臣)

出席國

十 九 箇 國

出席員

三百九十三名

列國議會同盟規約案ヲ決定ス

内容一、目的及組織 二、列國議會同盟總會 三、議會同盟評議員會 四、列國議會同盟事務局

決議案

第一、亞爾然丁、智利間ノまぜらん海峡ニ關スル條約、こんすたんちのーぶる協約ニ依ルすえず運

河、英米間ノ協約ニ依ルばなま運河ハ戰時普通法ノ除外例タルコトヲ研究スル委員會ヲ設立ス

ヘキコトヲ希望ス

第二、海戰法規ノ整頓ノ必要ヲ認メ一般列強ニ倫敦宣言ノ調印ヲ希望ス

第三、通商上ノ利益、國際私法裁判所事務ニ關シ一九〇七年ノ協約ヲ速ニ調印セラレムコトヲ希

望ス

第四、海戰法規中一部改正ヲ希望ス

第五、列國議會同盟總會ニハ成可ク多クノ國家ノ列席ヲ要望ス

第六、議會同盟ノ團員日ニ多キヲ加フルニ付組織改造委員會ニ委託シテ將來ノ總會ノ代表組織案

ヲ作成セシムルコトヲ決議ス該草案ハ次回ノ總會ノ審議ニ付スヘキモノトス

第七、亞米利加議會ニ於テ最近承認セルト同様ノ國務委員會ヲ議員團各國ニモ設立セムコトヲ希

望ス

第八、海牙事務局ハ毎年調印國間ニ決定セル仲裁裁判協約條文ヲ公表シ該國政府ハ該國議會ニ之

ヲ配布スヘキコトヲ希望ス

第一、列國議會同盟規約改訂ニ就キ承認ヲ經次回ノ列國議會同盟公報ニ其ノ全文ヲ發表セムコトヲ決議ス

第二、少數國民ノ權利及信教ノ自由確保ニ就テノ殖民及人種問題研究委員會長ノ報告ヲ基礎トシテ少數國民ノ希望ヲ審議スヘキコトヲ決議ス

第三、第二十回列國議會同盟總會ハ軍備縮少ニ關スル華盛頓會議ノ結果ニ満足ノ意ヲ表シ世界平和ノ爲ニ該會議ヲ繼續セラレムコトヲ要求ス

第四、四海同盟ノ精神ノ下ニ學術研究ノ爲メ各國ハ協同的ニ活動セムコトヲ要求ス

第五、軍備縮少問題ニ付テ各國ハ自由ニ意見ヲ交換シテ其ノ成果ヲ收メムコトヲ要求ス

●第二十一回(一九二三年)コペンハーゲン總會(自八月十五日至同月十七日)

議長 *Moltzen* (Moltzen) 氏

出席國 二十 四 箇 國
出席員 百 餘 名

決議案

第一、外交政策ニ就テノ議會ノ監督ニ關スル法律問題研究委員會ノ報告ヲ次回總會ニ提出スルコトヲ決議ス

第二、國際委任統治問題ヲ研究シ國際平和維持ノ爲メニ益是ヲ善用シ次回總會ニ於テ本問題ヲ審議スヘシ

第三、軍備縮少問題ノ研究ノ普及ヲ計ラムコトヲ決議ス

第四、少數國民ノ權利義務保護ニ關シ議員團又ハ國ニ對シ其ノ研究ヲ促シ右ニ關スル提案者ノ宣言ヲ國際聯盟ニ送致セムコトヲ決議ス

第五、歐洲ニ於ケル經濟財政狀態開進ノ爲メ通商ノ自由貨幣價格ノ調節ヲ計ルヘク各議員團ハ協議セムトス

第六、國際罹災國民救濟會ヲ設立シ各國民ノ相愛相敬ノ意ヲ發展セシメムトス

第七、規約第十四條ノ改正ヲ決議ス

●第二十二回(一九二四年)ベルン、ぢゆねーグ總會(自八月二十二日至同月二十九日)

議長 *Moltzen* 氏

出席國 二十 五 箇 國
出席員 百 四 十 餘 名

決議案

第一、外交政策ニ對シ議員ノ監督權ヲ認メ一國外交政策ヲ一部野心家ニ放任セサルコトヲ期ス
 第二、國際聯盟ハ何時タリトモ委任統治ノ期間ヲ制限又必要ナル場合ニ於テハ委任統治制度ヲ全廢シ得ルノ權能ヲ有ス可キコトヲ希望ス

第三、

- (イ) 國際關係ノ圓滑ヲ妨クルカ如キ約款ヲ撤廢スル様通商條約ヲ改ムルコト
- (ロ) 現行稅制制度ノ根本改正
- (ハ) 稅關制度ヲ急進的ニ改正シ通商上ノ障害ヲ除去シ手續ヲ簡單ニスルコト
- (ニ) 旅券制度ヲ廢止シ外國旅行者ノ通行ヲ妨クル警察制度ヲ廢スルカ又ハ少クトモ旅行ノ查證ヲ撤廢スルコト

第四、

社會政策問題殊ニ移民問題研究ノ爲メ常設委員會ヲ設置スルコトヲ要求ス

第五、

軍備制限問題中武器取締ニ關スル原則ニ據リ國際的ニ之ヲ律スルト同時ニ國內法規ノ制定ノ必要アルヲ認ム

第六、

次回總會ハ華盛頓ニ開催スヘキコトヲ認ム

●第二十三回(一九二三年)華盛頓、おつたわ總會(自十月一日至同月十三日)

議長 ウィリアム・ビ、マッキンレー氏 (William. B. McKinley)

(米國上院議員)

出席國 四十一箇國

出席員 三百七十一名

決議案

第一、國際聯盟カ國際法典編纂ノ目的ノ爲ニ設ケタル專門家委員會ノ勞ヲ多トスルト共ニ國際間ノ紛爭ハ之ヲ綜合的ノ司法規定ニ依リ平和裡ニ解決スルノ緊要ナルニ鑑ミ司法問題調査委員會ヲシテ次回ノ同盟總會ニ本問題ニ關シ提案ヲ爲サシムルコト尙ソノ提案ハ將來國際法典ノ編纂ヲ企圖スル國際會議ニモ提議ス

第二、司法問題調査委員會ハ國際法典編修ニ當リテハ政治、司法條件以外ニ各國家ノ生存ヲ確保スヘキ經濟條件ニ留意シ國家ノ權利及義務ノ宣言ヲ同法典中ニ挿入セル草案ヲ作成シ次ノ列國會議ニ提出ス

第三、司法問題調査委員會ハ侵略的戰爭防止ノ實際的解決方法トシテソノ防止法ノ草案要略ノ作成ト同戰爭ノ社會、政治、經濟及道德的原因研究ノ爲メ常設專任委員會ヲ設ク

第四、歐洲各國間ニ於ケル經濟上ノ障壁ヲ除去シ以テ歐洲關稅協定ヲ爲スハ通商ノ發展ト友誼増進ニ裨益スル所僅少ナラサルモ其實現ハ甚タ困難ニシテ歐洲諸國ノ各異リタル經濟狀態ニ適合セサルヘカラス依テ充分ニ詳密ナル研究ヲ爲シ次回總會ニ右ノ報告書提出ノ爲經濟及財政委員會内ニ特別專任委員會ヲ設ク

第五、少數民族問題ノ公平ナル解決策トシテ多數及少數ノ兩民族ノ同數カ代表者ヨリ成ル同數委員會ヲ組織シ且少數民族ニ關スル諸條約文ノ解釋及適用ニ付テノ係爭問題ハ萬國仲裁裁判ニ付議スルコト

第六、

一、隣接國境ニ無防備地帯ヲ設置スルコトハ國境軍隊間ニ惹起シ易キ衝突ヲ防止シ雙方ニ安全保障ヲ與ヘルコト大ナル所以ヲ高唱スルコト

二、軍備縮少問題委員會ハ隣接國境ニ無防備地帯設置ニ關スル條約締結ノ爲商議セムトスル議員團ノ仲介機關ト爲ルコト

第七、軍備ノ縮少ハ最近各國間ニ膨張セル軍備費ノ輕減ト國民ノ安寧上重大ナル尤モ效果アル方法ノ一ナルヲ以テ軍縮方法ノ徹底的研究ヲ爲シ專門的ニ一般軍備縮少ニ關スル提案ヲ作成スル爲ニ軍備縮少問題委員會内ニ專任委員會ヲ設ク、コノ委員會ハ前總會ニ提出セラレタ

ルニ提案竝ニ今回ノ總會ニ付議セラレタル諸提議等ヲ審査ス專門家ヲ委員ニ加フルコトヲ得

第八、現今議會制度カ屢々批難攻撃セララルノ狀態ニシテ列國議會同盟ハ之カ對策ヲ講スルノ必要ナルニ鑑ミ政治組織問題調査委員會ハ各國議員團ニ諮問シタル後各國ノ議會制度ニ付キ研究シ其ノ報告書ヲ次ノ總會ニ提出スルコト

六、列國議會同盟日本議員團ノ成立

列國議會同盟日本議員團ノ成立

列國議會同盟會議カ一八八八年(明治二十一年)英佛兩國ノ代表者相會シテ各國國會間ノ關係ヲ改良セシコトヲ決議シ翌年巴里ニ開催セラレタルハ前述ノ如シ

我議員團ニ正式ノ招待狀ヲ受ケタルハ一九〇六年(明治二十九年)ニシテ當時開催地タル英國倫敦ニ滞在中ノ竹越與三郎君ハ一個ノ議員ノ資格ヲ以テ參列シ一九〇八年(明治四十一年)獨國伯林ニ開會通牒ニ接スルヤ杉田議長、箕浦副議長、林田書記官長ノ斡旋ニ依リ有志議員會合シテ議員全體ヲ有志團體トシ團體ノ代表者ハ正副議長ヲ以テ之ニ充ツルコト等ヲ議決シ長島鷲太郎君渡歐ノ序ヲ以テ團體ノ承認ヲ經テ參列シタリ

七、列國議會同盟日本議員團規約

列國議會同盟日本議員團規約

- 第一條 日本帝國議會議員有志ハ列國議會同盟ニ參加ノ目的ヲ以テ日本議員團ヲ組織ス
- 第二條 列國議會同盟本部ニ對スル通信其他ノ事務ヲ取扱フ爲メ衆議院事務局内ニ其事務所ヲ設ク
- 第三條 團體ニハ團長副團長幹事各一名評議員十五名ヲ置ク
- 團長ハ衆議院議長副團長ハ衆議院副議長ヲ以テ之ニ充テ評議員ハ團長之ヲ指名シ幹事ハ衆議院書記官長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 團長ハ本團一切ノ事務ヲ指揮シ且ツ團體ヲ代表ス
- 幹事ハ團長ノ指揮ニ依リ團體ノ事務ヲ掌理ス
- 評議員ハ重要ノ事項ヲ評決ス
- 第五條 團長以下職員ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル但任期滿限ニ達スルモ後任者ノ選定セララル迄ハ其職務ヲ繼續スヘシ
- 第六條 列國議會同盟ニ派遣スヘキ團員ハ團長之ヲ選定ス

八、列國議會同盟會議日本議員團出席者氏名

團長ハ派遣ノ選ニ當リタル團員中ヨリ列國議會同盟評議員會ノ委員二名ヲ選定ス

第七條 團員總會ハ少クトモ毎年一回之ヲ開ク

第八條 列國議會同盟ニ提出スル議案ハ團員總會又ハ評議員會ノ決議ヲ以テスヘシ

年 度	會 期	場 所	出 席 者 氏 名	摘 要
西曆一九〇六 明治三十九	一四	倫 敦	竹越與三郎	但一個議員ノ資格ニテ參列
一九〇八 四一	一五	伯 林	長島鷺太郎	渡歐ノ序ヲ以テ團體ノ承認ヲ得テ參列
一九一〇 四三	一六	ぶらっせる	尾崎 行雄 小川 平吉 武藤 金吉 鈴置倉次郎 西村丹治郎 鈴木 力	板倉 中 近江谷榮次 藏原 惟郭 小寺 謙吉 安藤新太郎 同行書記官 津久井利行



年度	會期	場所	出席者氏名	摘要
一九一四 四一	一七	羅馬	(宮古啓三郎 長島鷲太郎 久保田與四郎 藤井善助)	團員出發後羅馬ニコレラ發生ノ爲會議 延期ト爲リ爲ニ右ノ内宮古渡邊ノ兩君 ハ評議員會ニ出席シ其他ハ中途ヨリ引 返シ歸朝セリ
大正 一九一 元二	一七	ぢゆねーぐ	(清水市太郎 武藤金吉 清水市太郎 神藤才一 齋藤隆夫)	明治大帝崩御ノ爲參列中止トナレリハ個 人ノ資格ニテ武藤君ハ佛國へ竹越君ハ 米國へ漫遊セリ
一九一三 二	一八	海牙	石橋爲之助 藏原惟郭 松本宗吾 増田義一	
一九一四 三	一九	すどつくほるむ	中西六三郎 田中武雄 今泉嘉一郎 正木照藏 櫻内幸雄	大正十年五月九日横濱發ニテ議員中西 君以下九名外ニ中村書記官同行米國ニ 派遣セラレシ處右ノ内同盟會議ニ參列 セルハ上記ノ四名ナリ
一九二二 二	二〇	維納也	高橋光威 三木武吉 上畠益三郎	

一九二三 二	二一	こべんぼーげん	高橋光威 三木武吉 上畠益三郎	吉良元夫 上塚司 同行書記官 土岐定應
一九二四 一三四	二二	ぢゆねーぐ	森田茂 磯部尙 前田房之助 高木益太郎 高島順作	平野光雄 坂井大輔 中村嘉壽 關俊吉 同行書記官 田口彌一
一九二五 一四	二三	華盛頓		帝都大震災災ノ爲缺席

九、日本議員團ノ年釀金負擔ノ概要

日本議員團ノ年釀金負擔ノ概要

一、日本議員團最初ノ行動ハ明治四十一年ニシテ同盟會議ニ參列セシハ第十五回會議ヨリ始マ
ル

二、年釀金ノ支出ハ明治四十四年第十七回會議ヨリ始マル

(一) 第十六回會議ニ參列者小川平吉氏ノ報告書ニ依レハ二十一箇國中政府モ議員團モ費用ヲ負
擔セサル國ハ日本外五箇國アルノミナリ而シテ各國ニ於テ議員團ノ設置ヲ要望シ費用ノ分擔

ヲ要求セラル右ニ付キ

(二) 四十四年八月一日日本議員團規約ヲ各派交渉會ニ於テ決定シ

次テ同年十月十六日日本議員團評議員會ニ於テ同盟事務局ヘ寄附スヘキ金額ハ佛貨二千五百法(日貨約千圓)トシ送付スルコトヲ決議ス而シテ同年七月二十七日送金セリ

三、明治四十五年三月二日付中央事務局ヨリノ問合ニ對シ日本議員團ノ分擔額ハ議長交際費ヨリ支出セル旨ヲ回答ス

四、明治四十五年(一九二二年調)費用分擔區分

政府	合衆國以下	十六箇國
團體	日本、蘭、露	三箇國

五、明治四十五年六月二十一日同盟本部ヘ左ノ問合ヲ爲ス

同盟本部ニ對スル列國就中白國政府ノ補助金ハ何レノ官省所管費目ヨリ充當スルヤ
右ニ對シ本部ヨリノ回答

「同盟本部ニ對スル經費ノ釀出ハ原則上列國外務省ノ所管ニ計上セラルヘキモノナリト雖モ我白國(本部所在地)ノ如キハ之ヲ議會ノ歲計豫算中ニ計上シ元老院ト代議院トヲシテ各

各其半額ヲ分擔セシメタリ又洪國ノ如キハ外務省ノ設ケナキカ故ニ總テ之ヲ内閣ノ費目中ニ算入シタリト

六、明治四十五年(一九二二年)七月三十日年釀金二千五百法ヲ橫濱正金銀行爲替手形ニテ送金セ

七、大正二年(一九一三年)五月二十三日、大正三年ハ七月二日同上二千五百法送金シ爾後大體ニ

於テ毎年送金セリ

參考 記錄不明ナルモ前項白國ノ經費支出ニ鑑ミ日本議員團ニ於テモ明治四十五年以來年釀金ヲ議會ノ豫算ニ計上セラルヘク盡力シタルモノト考ヘラル而シテ我國ニ於テハ漸ク大正

十一年度ヨリ本院ノ豫算ニ計上セラル、ニ至レリ

八、年釀金ハ從來佛貨二千五百法ナリシモ大正十一年度以降ハ豫算ニ計上シテ國庫支辨トナリタルニ依リ邦貨ニテ一千圓ヲ釀出スルコト、ナシ

大正十一年度(第二十回會議)ハ田口書記官列國議會同盟會議ニ參列ノ序ヲ以テ同盟事務局ニ持參交付シ大正十二年度以降ハ日本銀行經由本部ニ送金セリ

九、年釀金ノ額ニ就テハ一九二三年(大正十二年)十二月受領ノ列國議會同盟公報ニ依リ同盟會議ノ決議ニ基ツキ日本ノ割當釀出額ハ瑞貨壹萬法(邦貨約五千圓餘)ト決定セラレタリ右ニ依

本年度ノ送金額一千圓ニ對シテモ同盟事務局ヨリハ日本議員團ノ釀出額ハ其ノ割當額ノ一部分ナルニ依リ更ニ送金希望ノ旨ヲ注意シ來レリ而シテ年釀金割當額ノ基礎ハ列國ノ人口ヲ基準トシ同盟總會ニ於ケル投票權規則ト適應セシメタルモノニシテ我國ニ於テモ此決議ニ從ヒ年釀金ヲ釀出スルヲ適當ナリト認メ其旨政府當局ニ稟議ノ結果大正十四年度ヨリ瑞貨一萬法ニ相當スル額ヲ支出スルニ決シ大正十四年度ハ追加豫算ニテ支出シ十五年度ヨリ豫算ニ計上シテ釀出スルコトナレリ

十、日本議員團ノ現在役員並團員名簿

(大正十五年十二月二十日現在)

日本議員團役員氏名(大正十三年八月決定)

- 團長 粕谷義三
- 副團長 小泉又次郎
- 幹事 中村藤兵衛
- 評議員 望月小太郎
- 建部 遜吾
- 中原德太郎
- 中野正剛

日本議員團團員氏名(イロハ順)

- | | | | |
|-------|-------|--------|-------|
| 磯部 尙 | 石黒大次郎 | 伊坂秀五郎 | 石坂豊一 |
| 板野友造 | 飯塚春太郎 | 岩崎 勳 | 石原正太郎 |
| 岩崎幸治郎 | 井本常作 | 井上敬之助 | 犬養 毅 |
| 井坂豊光 | 今井健彦 | 井上孝哉 | 井上利八 |
| 井上雅二 | 石井三郎 | 石川長右衛門 | 生田和平 |
| 井上虎治 | 磯部保次 | 井出繁三郎 | 池田泰親 |
| 今里準太郎 | 飯村五郎 | 池田龜治 | 岩切重雄 |
| 石塚三郎 | 井口延次郎 | 猪野毛利榮 | 禰 苗代 |
| | | | |
| | 平沼亮三 | 高橋光威 | |
| | 清水市太郎 | 松田源治 | |
| | 高見之通 | 堀切善兵衛 | |
| | 河上哲太 | 中村 巍 | |
| | 若宮貞夫 | 松本君平 | |
| | 武藤山治 | | |

一柳仲次郎
林田龜太郎
鳩山一郎
原惣兵衛
橋本喜造
秦豐助
濱口吉兵衛
原脩次郎
馬場義興
濱田國松
服部英明
八田宗吉
原田藤次郎
土生彰
原夫次郎

原田佐之治
濱口雄幸
羽田彦四郎
原田十衛
坂東幸太郎
羽室庸之助
西澤定吉
西方利馬
西村丹治郎
西英太郎
西脇晋
本田義成
本田恆之
本多貞次郎
堀田義次郎

星廉平
堀喜幸
星島二郎
戸井嘉作
土井權大
富田愿之助
富永孝太郎
戸田由美
戸澤民十郎
富田幸次郎
床次竹二郎
東郷實
中馬興丸
千葉宮次郎
千葉三郎

陣軍吉
沼田嘉一郎
太田信治郎
長田桃藏
小野重行
折原巳一郎
大竹謙治
小島善作
大津淳一郎
大園榮三郎
尾崎行雄
大口喜六
岡本實太郎
奧村千藏
小川平吉

大島要三
岡田忠彦
小川郷太郎
大岡育造
岡崎邦輔
岡田温
小野寅吉
大石大
小野義一
大里廣次郎
大内暢三
大麻唯男
大城幸一
岡田伊太郎
奥野小四郎

鷲野米太郎
若尾幾太郎
若尾璋八
渡邊伍
渡邊祐策
片岡直温
川崎安之助
川口義久
加藤知正
神谷彌平
加藤政之助
河野正義
神田正雄
加藤久米四郎
川崎克

加藤鏢五郎
加藤鯛一
加藤六藏
兼松寅太郎
河崎助太郎
金澤安之助
柏田忠一
兼田秀雄
河野曉
金田平兵衛
海原清平
河波荒次郎
金光庸夫
加藤十四郎
川原茂輔

神村吉郎
神部爲藏
横山勝太郎
吉村伊助
吉津度
吉川吉郎兵衛
吉原義雄
吉植庄一郎
横山一格
米原於菟男
横山金太郎
吉田眞策
吉木陽
吉田磯吉
吉松忠敬

高木益太郎
頼母木桂吉
高木正年
田崎信藏
田中讓
武内作平
田中万逸
田中武雄
多木久米次郎
高鳥順作
高橋元四郎
高田耘平
竹原樸一
田中善立
丹下茂十郎

武富濟
田邊七六
竹内友治郎
高井商二
田中養達
高木音藏
高橋是清
高橋熊次郎
田中隆三
谷口宇右衛門
谷口源十郎
俵孫一
高草美代藏
田淵豐吉
谷原公

高島兵吉
田中定吉
高山長幸
太宰孫九
田口文次
高木第四郎
土屋興
筒井民次郎
堤清六
土屋清三郎
堤康次郎
津崎尙武
中島守利
中林友信
中村貞吉

中村四郎兵衛
永田善三郎
中野寅吉
永井柳太郎
難波清八
長岡外史
永田新之允
中村啓次郎
成田榮信
中谷貞頼
中村清造
中野猪之助
中野實
中山貞雄
長峰與一

永井作次
中村嘉壽
村上國吉
向井俊雄
武藤金吉
武藤嘉門
村松龜一郎
村山喜一郎
室木彌次郎
村上紋四郎
植場平
上原好雄
生方大吉
内田信也
浦野謙朗

植原悦二郎
内ヶ崎作三郎
浦山助太郎
上埜安太郎
梅田寛一
内野辰次郎
野原種次郎
則元由庸
野田俊作
野村治三郎
野村嘉六
野田卯太郎
來栖七郎
倉元要一
黒田重兵衛

畔田明
熊谷巖
工藤鐵男
工藤十三雄
熊谷直太
熊谷五右衛門
栗延敬太郎
藏園三四郎
栗林五朔
黒住成章
矢野鉉吉
八並武治
山本芳治
山口義一
山宮藤吉

山口左一
山田又司
山田助作
山本悌二郎
山口政二
八木逸郎
山本勝次
山田道兄
山本慎平
山本条太郎
山口嘉七
山柝儀重
山谷德治郎
山道襄一
山下谷次

山口恆太郎
山内確三郎
山内範造
山崎達之輔
山本厚三
前田米藏
前田房之助
牧山耕藏
松井郡治
増田義一
松本眞平
丸山五郎
松山兼三郎
松浦五兵衛
牧野良三

松本忠雄
町野武馬
松岡俊三
町田忠治
松山常次郎
松田三德
前田兼寶
松實喜代太
丸山浪彌
藤井忠兵衛
福井甚三
藤田胸太郎
古屋慶隆
深井功
降旗元太郎

二木洵
藤澤幾之輔
藤川清助
古川清
藤田包助
福田五郎
藤井敬慎
麓純義
小島證作
小寺謙吉
小林彌七
木檜三四郎
木暮武太夫
近藤達兒
小久保喜七

小島七郎
小屋光雄
小山松壽
近藤重三郎
小泉策太郎
紺野九右衛門
小橋藻三衛
古林新治
兒玉右二
小西和
古林喜代太
神崎勳
小橋一太
兒玉實良
小池仁郎

江藤榮吉
寺島權藏
寺田市正
手代木隆吉
安藤正純
淺賀長兵衛
青木精一
阿由葉勝作
安保庸三
青木知四郎
蟻川五郎作
青山憲三
荒井建三
荒川五郎
秋田寅之介

秋田清
青柳郁次郎
有馬頼寧
安達謙藏
東武
淺川浩
作間耕逸
佐々木安五郎
佐竹庄七
齋藤隆夫
齋藤珪次
齋藤太兵衛
齋藤藤四郎
榊原經武
佐々木文一

齋藤仁太郎
佐藤富十郎
柵瀬軍之佐
佐々木春作
齋藤金吾
榊田清兵衛
佐藤實
佐藤球三郎
櫻内幸雄
佐々木長治
坂井大輔
坂梨哲
佐藤潤象
佐藤重遠
逆瀬川仁次郎

佐々木平次郎
澤田利吉
木戸豐吉
清瀬一郎
木村政次郎
菊池謙二郎
木村小左衛門
吉良元夫
岸本賀昌
宜保成晴
由谷義治
湯淺凡平
宮崎三之助
三木武吉
宮本逸三

3F71

三輪市太郎
宮崎友太郎
三橋四郎次
宮島幹之助
三好榮次郎
三善清之
三土忠造
宮崎松次郎
三浦數平
斯波貞吉
志波安一郎
清水留三郎
志村清右衛門
篠原和市
志賀和多利

信太儀右衛門
鹽田團平
清水長郷
嶋居哲
下元鹿之助
重松重治
島本信二
廣瀬徳藏
平川松太郎
廣岡宇一郎
平野光雄
平井光三郎
樋口秀雄
比佐昌平
廣瀬爲久

平山爲之助
平田民之助
森田茂
森田政義
森田金藏
森田木之肇
森田轟起
粟山博
望月圭介
元田肇
關直彦
瀬沼伊兵衛
關矢孫一
關俊吉

砂田重政
鈴木隆
杉浦武雄
鈴木富士彌
菅原傳
菅原英伍
菅村太事
隅田豐吉
杉宜陳

以上 四四六名
外三役員 一七名
缺員 一名

